



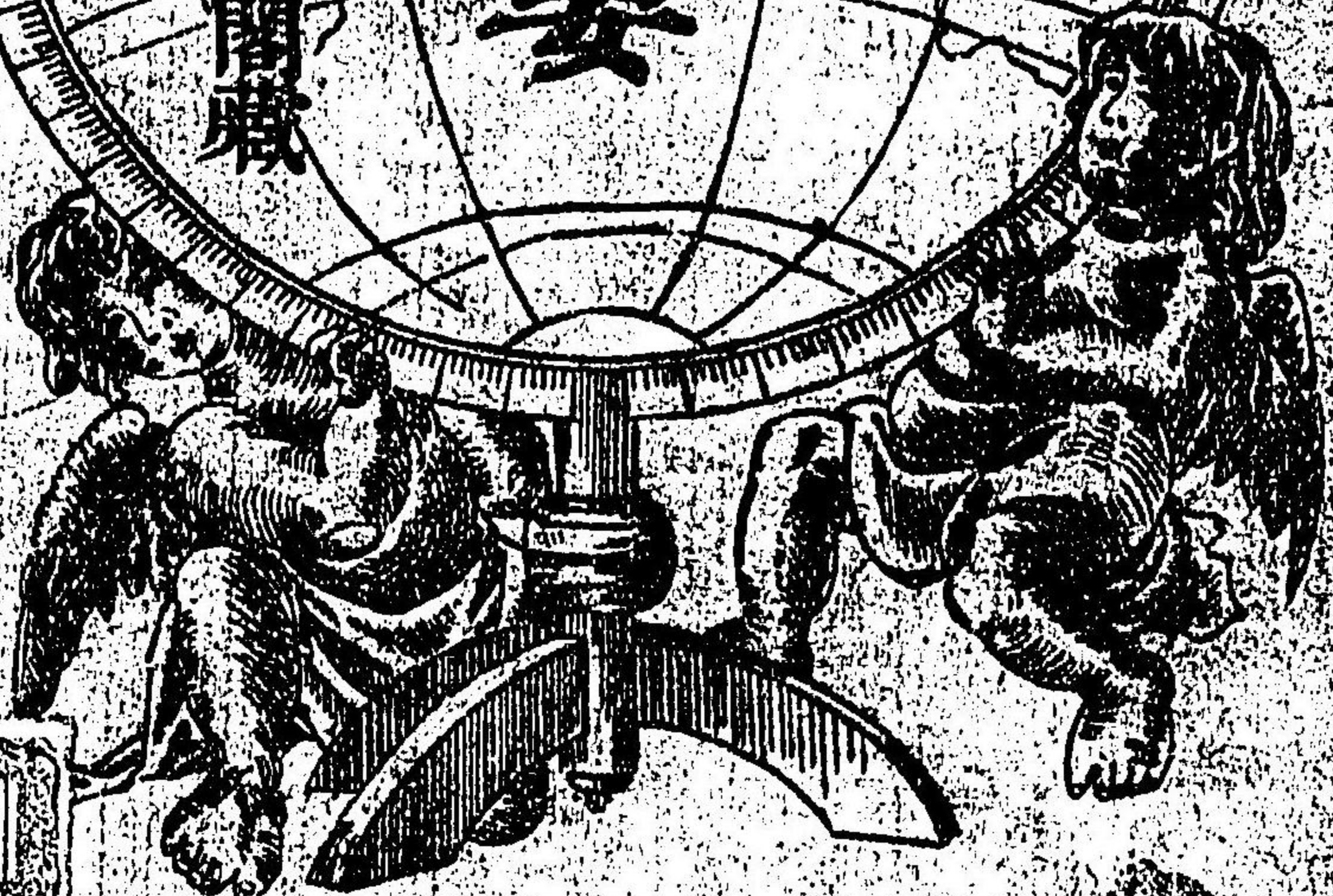
3061

PHIRINOTAIY

地理の大要

前川一郎編輯

東京叢書第 10 卷





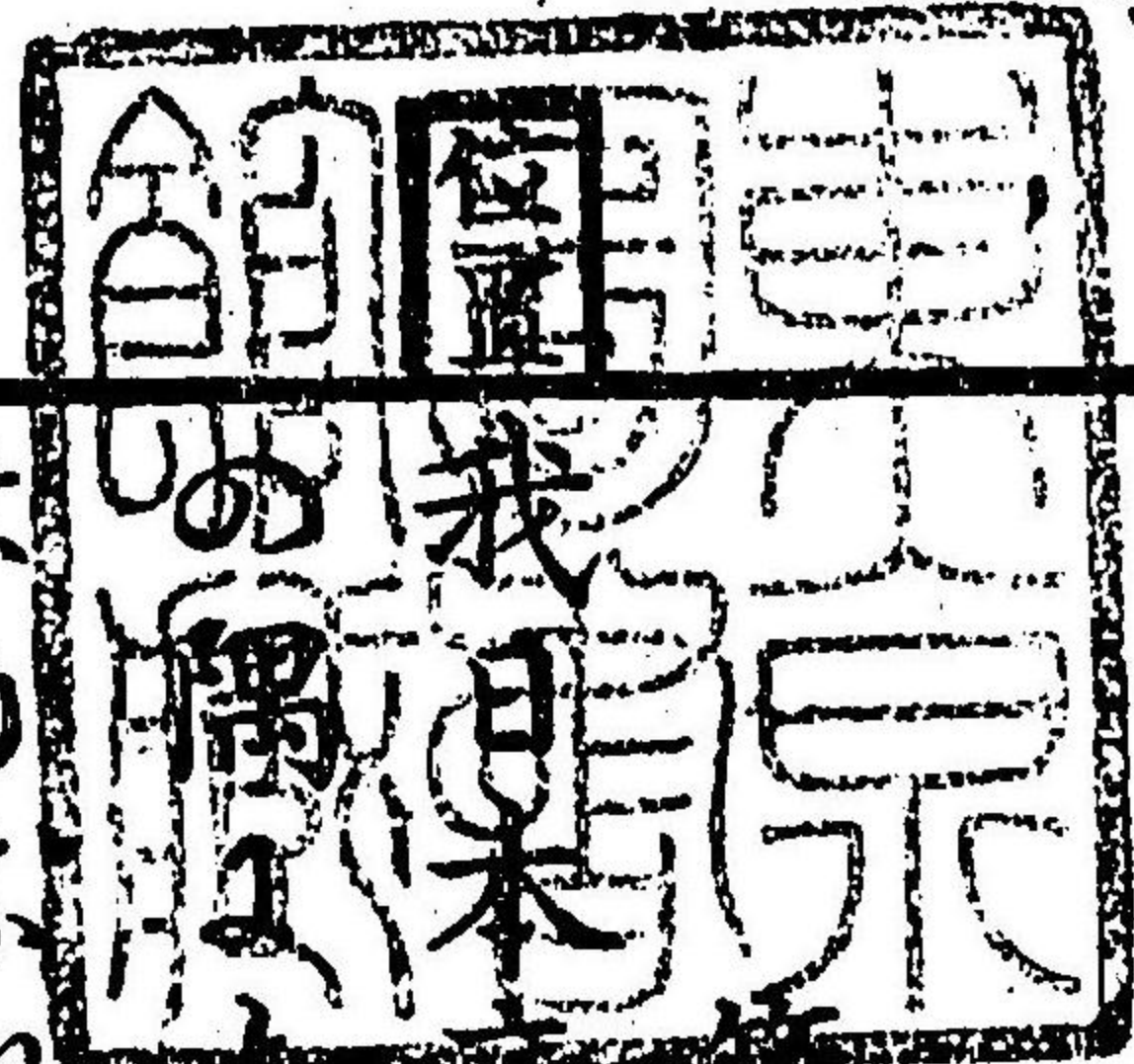
明治二十年一月十九日内務省交付



# 地理の大要巻中

日本の部

前川一郎 編輯

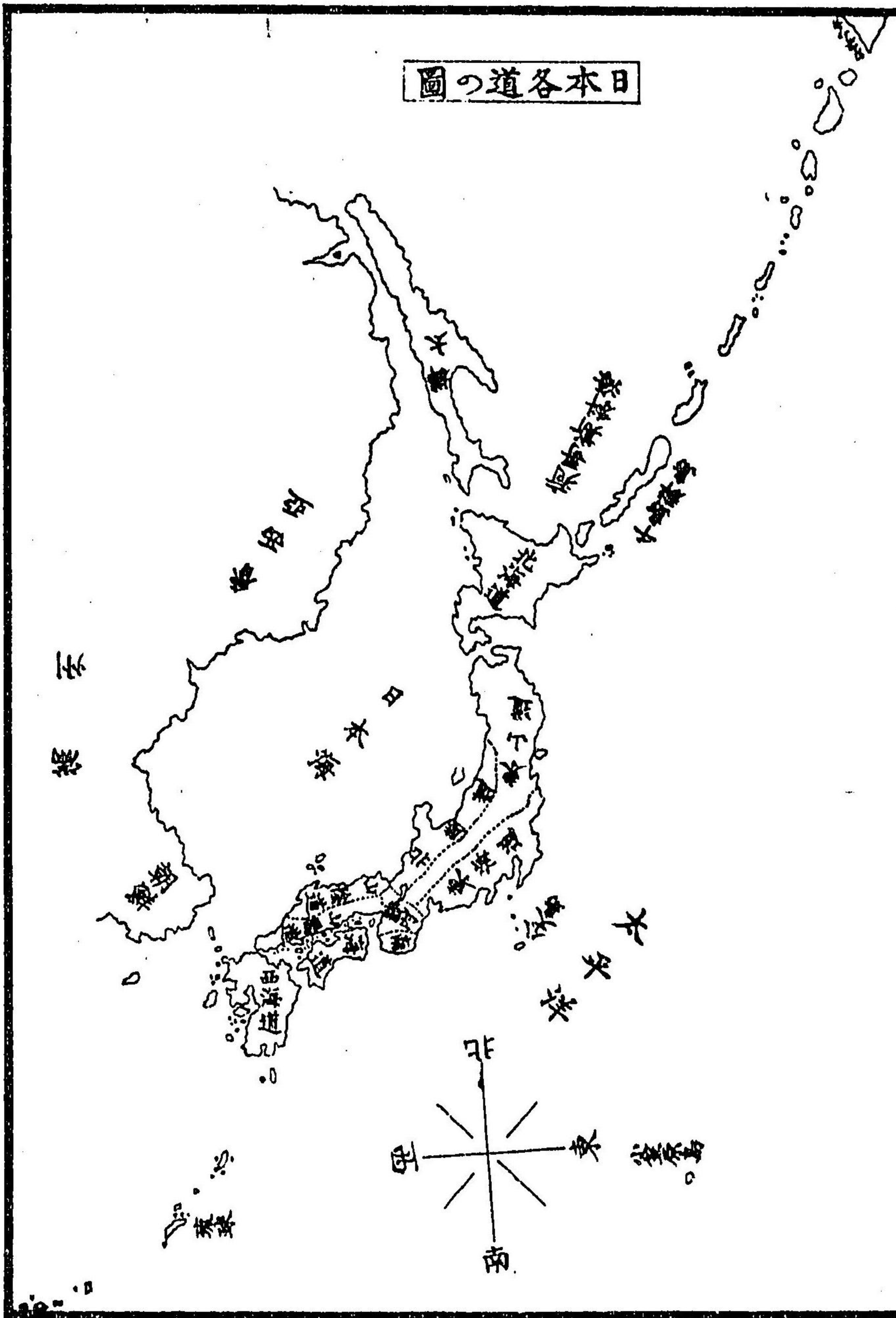


## 第一 日本地理總論

我日本帝國は、亞細亞洲の東の方、大平洋の西北の隅にある。島國にして、四大島と、あまたの小島よりおれり、中央よりありて最も大なるものを、本島といひ、其西南よりある、二つの島を、四國九州といひ、東北よりあるものを、北海道と云ふなり、又北海道の東北よりつらなる、數多の小島を、千島群島



日本各道の圖



經度

といひ九州の西南に在るものと琉球諸島といふ又本島の南に八丈島小笠原島等あり、緯度は北緯線二十四度より北こりて五十度とどまり、經度ハ東經線百二十四度と西經線百五十七度とのあひだなり、

疆域

西北の方を日本海とへたて、朝鮮、滿州、及び魯西亞と對ひ、北を樺太、カムサツカと接し、東南ハ太平洋と面し、西は支那海とへたて、支那と相對せり、

國形

國の形はくの字をなし、西南よりな、ぬ、東北



大日本全圖之圖



よよふたはり、其長さハ、大凡七百餘里、一里四方  
と一坪として數ふれば、二萬四千七百九十四坪  
あり、

區劃

全國を分ちて、畿内八道とし、又之を分ちて、八十  
四國とし、更に分ちて、三十七區八百一郡とす、又  
其下よ、七萬〇八百八十九の町村あり、

國名

本道の東南海よそふて並びたる國々を、東海道  
よして、伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊  
豆、相模、武藏、安房、上總、下總、常陸の十五國なり、東  
海道、の背よ沿ふて東し、北よ折れて、海よ延びい



でたるハ東山道より近江美濃飛驒信濃上野下野磐城岩代陸前陸中陸奥羽前羽後の十三國なり東山道の北よりありて北海よりをめる國々を北陸道とす若狹越前加賀能登越中越後佐渡の七國あり此三道の西南よりある五國を畿内とす山城大和河内和泉攝津是より畿内の西よりありて北海より面する八國と山陰道とす丹波丹後但馬因幡伯耆出雲石見隱岐是より山陰道とすらあはせたる八國と山陽道といふ播磨美作備前備中備後安藝周防長門是より畿内の南海中

より出でたる地より四國島をあはせて南海道といふ紀伊淡路阿波讃岐伊豫土佐の六國あり九州島と其西北海中よりある二島を併せて西海道といふ筑前筑後肥前肥後豊前豊後日向大隅薩摩壹岐對馬の十一國なり本島の北よりあるものを北海道といふ渡島後志石狩天塩北見膽振日高十勝釧路根室千島の十一國なり伊豆相模武藏安房上總下總常陸と上野下野とを合せて關東八州といひ畿内地方と上方といひ又北陸道と北國といひ山陰山陽兩道と中國と



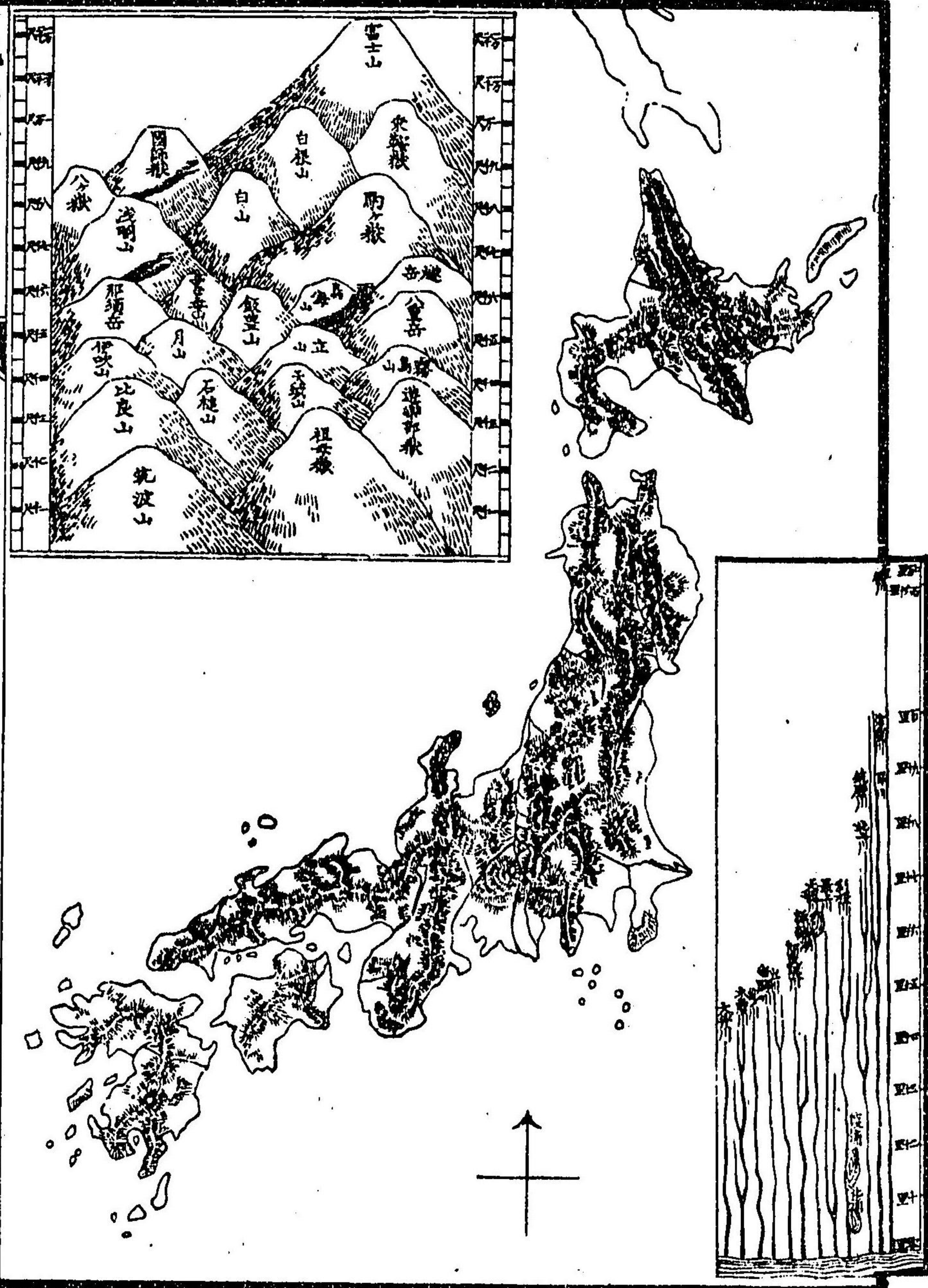
いふ

### 第二山

山  
 全國いたるとする山はほく、平地少ふし、その中  
 最も高き地方は、本島の中央にして、甲斐、信濃等  
 の山々より、高さ一萬尺以上あり、いたるものあり、  
 陸羽の中央より次ぎ、北海道北部の山脈、又其次  
 より位し、四國九州又之より次ぎ、中國に至りては、高  
 山甚だ稀なり

### 高山

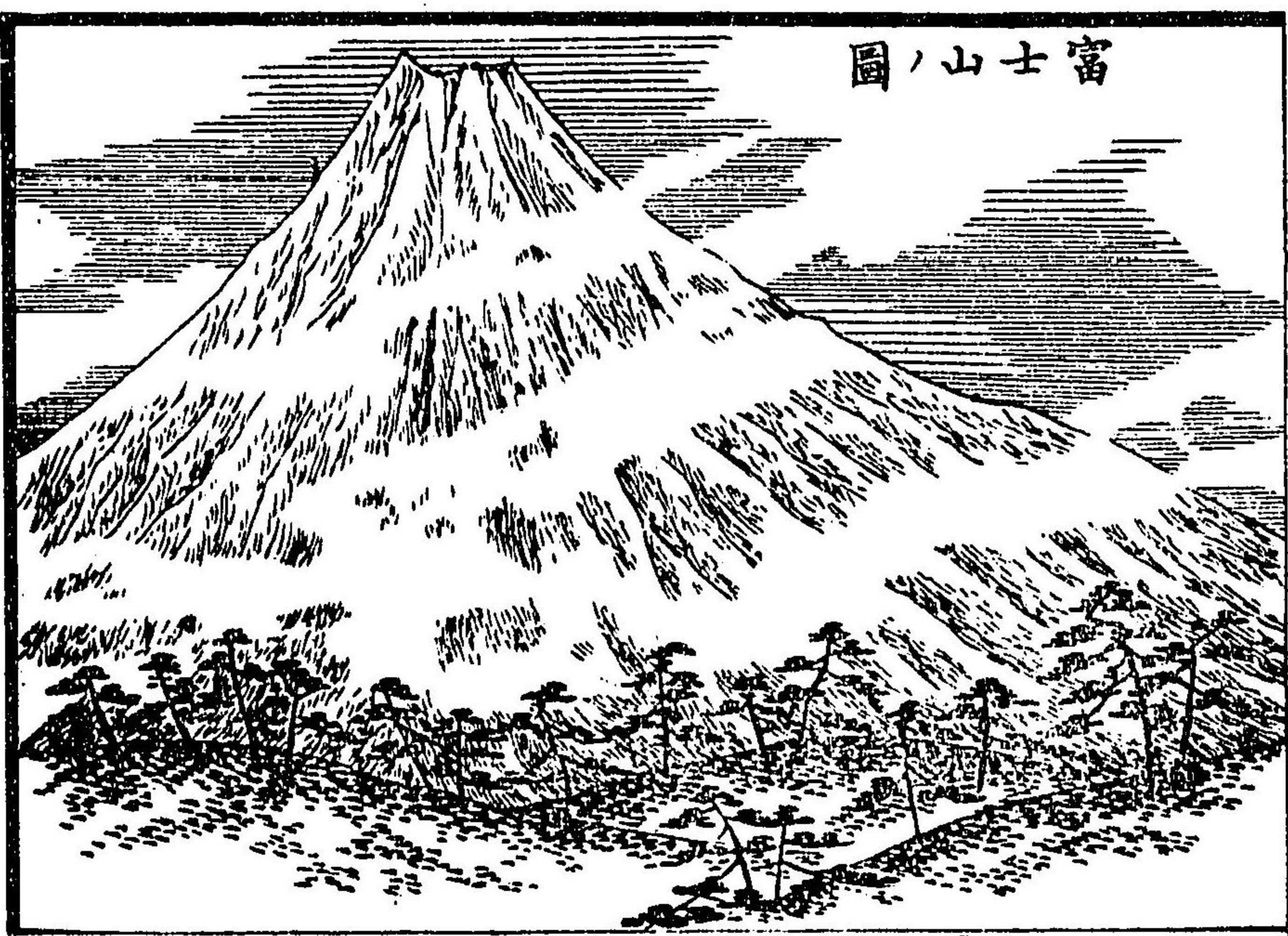
國內より、山の最も高きもの、富士山なり、乗鞍  
 岳、赤石山、白根山、之より次ぎ、白山、浅間山、黒髪山、大



地理の大要 卷之四 五 高木明義



富士山ノ圖



山阿蘇山等ハ皆之ニ次  
きて著名のものトす  
富士山ハ甲斐駿河ニま  
たがり高さ一萬二千三  
百七十尺我邦第一の高  
山ニして其頂ハ四時雪  
の消ゆることおく夏の  
さふかも尚ほ寒きとお  
ぼゆもと噴火山ありし  
が久しく烟をたち寶永

年中ニ至りて又火を發し東の山腹ニ一の山を  
生せり之を寶永山といふ其のち復た烟を見ず  
其他東海道よて名高き山ニ甲斐の白根山ハケ  
岳金峯山等よて各八千尺以上の高さあり伊豆  
の天城山ハ石材木材等をいだし常陸の筑波山  
ニ平野の中ニ高く聳えたり相摸の大山遠江の  
秋葉山伊勢の鈴鹿山等亦名あり  
東山道ニ大山脈全道ニ連り互りて實ニ本島の  
脊とも梁ともいふべき地なり故ニ地勢高く山  
の峻しきものも亦多し就中飛驒信濃と第一の



高地と稱す

信濃ハ、高山頗る多く、淺間山、上野の境ニありテ、頂上常ニ烟をたゞず、御岳、乗鞍岳ハ、飛驒の境ニ聳エ、國師岳ハ、武藏の境ニあり、其他、近江ニ、膽吹山あり、飛驒ニ、位山あり、上野ニ、赤城、榛名、妙義の三山あり、下野ニ、男體山、

榛名山湖水の圖



高原山、那須岳あり、那須岳ハ火山ナリ、磐城ニ、阿伽井岳、湯岳ありといへども、皆高からず、岩代ニ、磐梯山、安達太郎山、吾妻山、燧岳等ありテ、山脈國中ニ連れリ、栗駒岳、御駒岳ハ、陸羽の境ニあり、其脈のびテ、陸奥の八甲田山、岩木山、恐山ニ連れリ、陸中の岩手山、早池峯山、羽前の月山、羽黒山、羽後の鳥海山、大平山等ハ、皆其山脈ナリ、北陸道、第一の高山ニ、加賀の白山ニ、一テ、高さハ千四百尺餘あり、白雪四時絶えずといふ、越中の立山ハ、其高さ白山ニつげリ、其外、越後ニ、飯豊山、



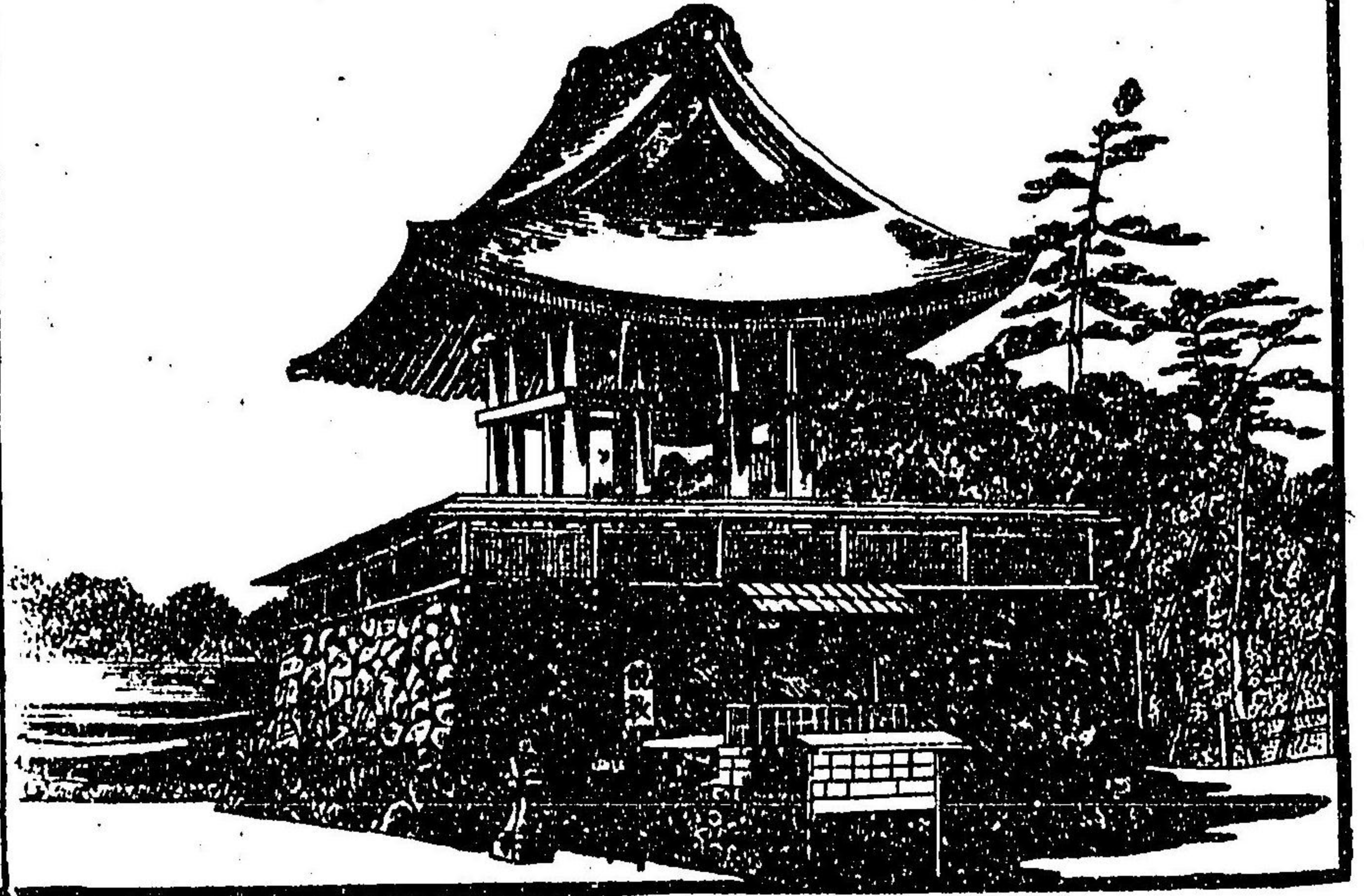
大和吉野山の圖



御神樂山、守門岳、妙高山あり、佐渡の金北山、金銀と出すを以て、其名高し、畿内にて名ある山ハ、山城、比叡、鞍馬、愛宕の三山あり、大和、吉野山あり、櫻花の名所なり、河内の金剛山、其山腹ハ、千早城の舊趾あり、

山陰、山陽兩道、山岳多けれども、高山と稱ふべきもの少く、獨り、伯耆ハ大山あるのみ、南海道にて、名高き山、紀伊ハ高野山あり、山上ハ大寺あり、之を金剛峯寺といふ、又阿波の雲邊寺、讃岐の五剣山、伊豫の石槌山等、四國島中

高野山六時鐘の鐘





の高山あり、  
 西海道よて、有名なる山岳を、豊前よ英彦山あり、  
 肥前の温泉岳、肥後の阿蘇山、日向の霧島山を、火  
 山よて、常よ烟を噴けり、薩摩よハ開聞嶽あり、其  
 形富士よ似たるを以て、世よ薩摩富士といふ、  
 北海道の山岳を、中央よ石狩、十勝の兩岳あり、其  
 他、天塩岳、阿寒岳、夕張岳、後方羊蹄岳等の高山あ  
 り、

温泉

我國ハ火山の數多きを以て、地中温泉をいだし、  
 の地亦少なならず、就中、伊豆、相模、信濃、上野、下野

箱根湯本



及び豊後、肥後の地方を、  
 最多りとす、  
 伊豆の海岸よ、熱海の温  
 泉あり、晝夜よ、六たび時  
 と違へど、熱泉を湧出せ  
 り、其湯ハ能く病を療や  
 し、其境を景色よ富める  
 を以て、内外の浴客、常よ  
 たえず、又其近傍よ温泉  
 を出ざる所少なならず



相摸箱根の七湯ハ、夏時湯ハ浴し暑を避くるの客多シ、上野ハ、草津、伊香保、まゝ下野ハ、日光、中禪寺の温泉あり、攝津の有馬ハ、山間ハありて、春夏の候甚だ賑ヘリ、

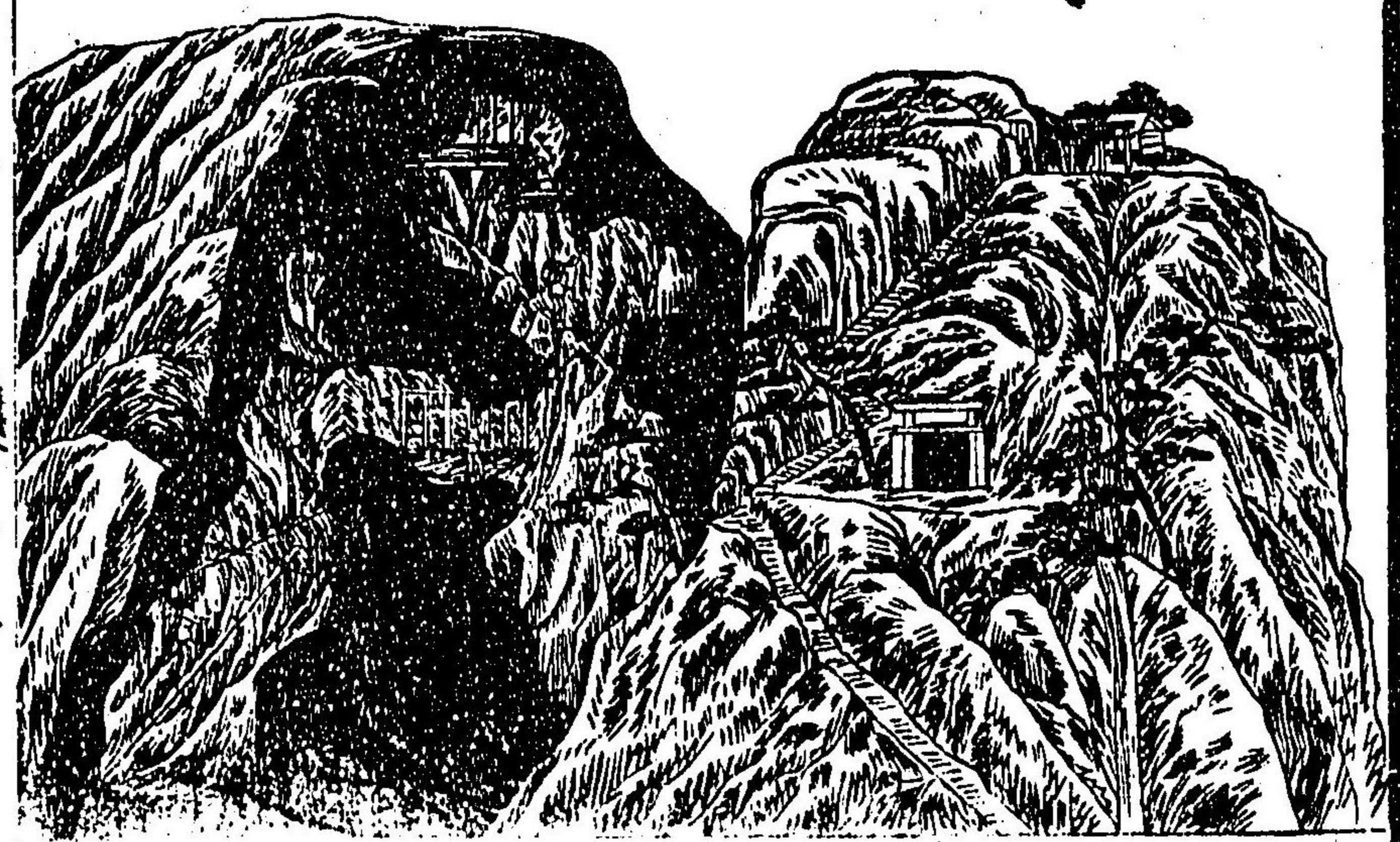
其他、岩代の會津、天寧寺の湯、信濃の澀の湯、越後の雲母の湯、伊豫の道後、肥前の古湯、紀伊の本宮等ハ、何れも名高き温泉ナリ、

第三 鑛物

鑛物

我國ハ、山脈全國ハ互りたれを、鑛物を産する山も亦多シ、其鑛物の重なるものハ、金、銀、銅、鐵、鉛、石

佐渡鑛山ノ内ヲ示シタル圖



炭等ナリ、

佐渡の鑛山ハ、三百年來の鑛山ナリて、盛んハ金銀を産すること、今ハいたるも亦衰ヘズ、但馬の生野鑛山ハ、金、銀、銅を産出す、其他、石炭ハ、筑後ハ三池鑛あり、肥前ハ高島鑛あり、羽前ハ油戸鑛ありて、盛んハ掘り出せり、



まゝ後志は岩内礦あり  
 羽後の院内鑛は金銀を産出すること甚ぶ多く  
 日本第一の良鑛といへり、羽後また阿仁の鑛山  
 ありて、金銀銅鉛と石炭とを出す、陸中にも鑛山  
 多く、小坂十輪田の兩鑛山は金銀銅を産出し、釜  
 石よりハ、鐵を産し、尾去澤よりハ、銅と出せり、  
 山陰山陽兩道の山脈ハ、銅鐵の鑛は富み殊に備  
 後ハ鐵坑多し、

第四 牧場

牧場

馬を牧さるの場、全國諸地はありと雖も、古より

有名なるハ、東山道陸羽  
 の地方より、最駿足の  
 良馬を産す、就中陸前の  
 大原濱陸奥の谷地頭ハ、  
 大牧場より、數千の馬  
 群常よむらがれり、其駿  
 なるもの、騎乗の用と  
 なし、其駑あるものハ、駄  
 荷の用は供さべし、此他  
 磐城の原町、三春等も亦

下總牧場の圖





多くの馬を産す、

陸羽の地、又牛を産し、馱荷の用とふし、又食用と充つ、されども食用と供して、美味ある牛ハ、攝津神戸の産を以て第一とす、

下總、取香野の牧場ハ、下總種畜場とふし、農商務省の管轄よりして、綿羊及び牛馬を牧ふ、

### 第五 川

我國ハ、地形細長く、山脈中央より横はり、數多の川と皆其山脈より、左右より向ひて流れ出づ、ゆゑに大河と稱ふるほどのもの少ふし、

大河

石狩川

石狩川漁鮭の圖



此中、北海道の石狩川を、最長くして、信濃川、利根川、これよりつぎ、北上川、最上川、又之より次ぐ、其他、江川、吉野川、筑後川等も、皆名高き川よりして、何れも通船の便利あり、石狩川を、日本第一の長き河よりして、其流百六十餘里あり、源を石狩岳より



發し、まがりくたて、多くの川を合せ、海に入る、其下流を、幅ひろく、船の通ひ頗るよし、又毎歲秋よいたれど、鮭をとることいと多く、其河口よ、諸國の船舶常集れり、

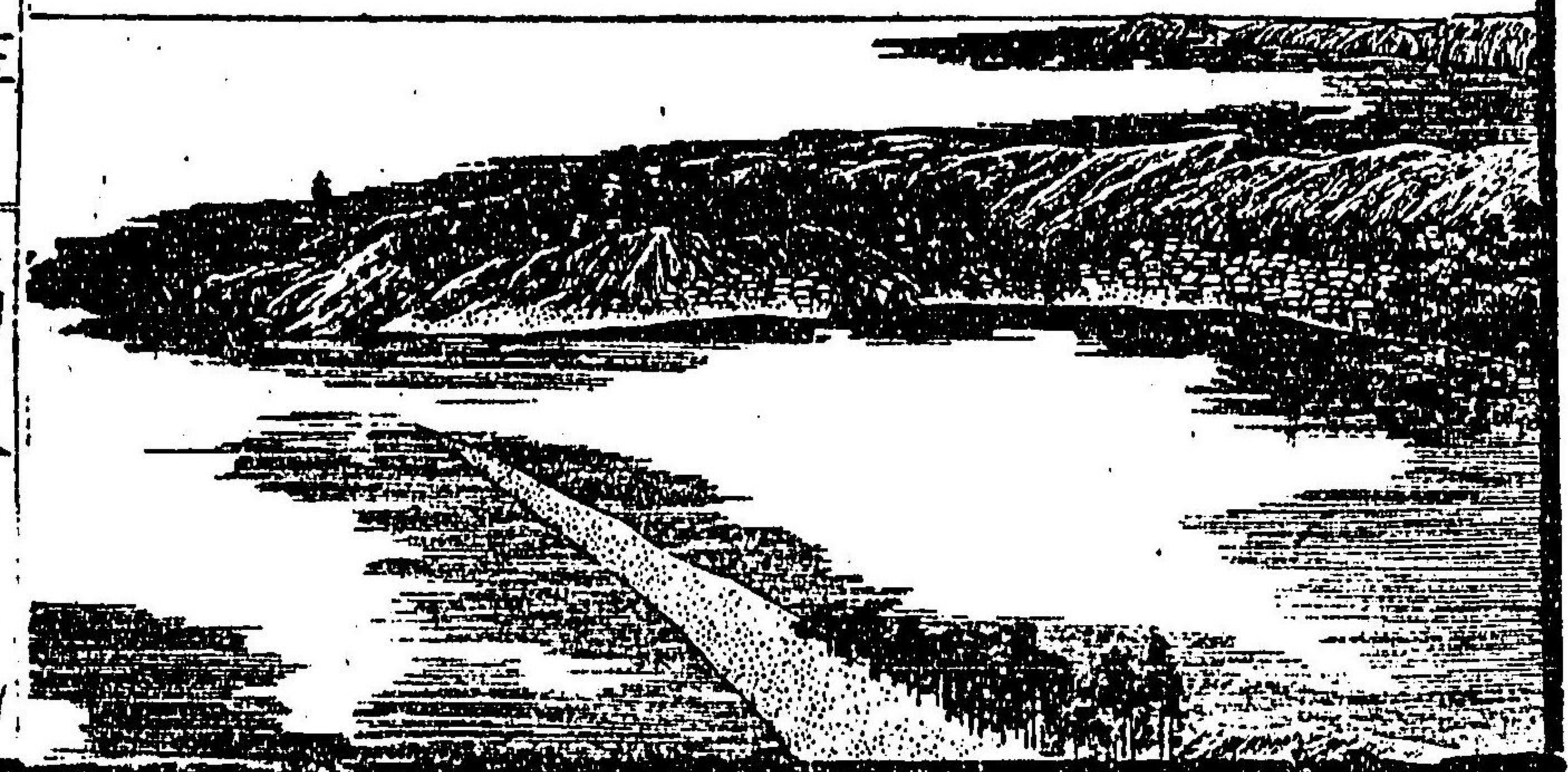
信濃

信濃川ハ、信濃ヨあり、其川上と千曲川といひ、甲斐の金峯山より源を發し、犀川とあひせ、東北ヨ流れ、越後ヨ入り、新潟港ヨを、越後と信濃との界の水底ヨ、岩石ありて、舟の通ひとさまざまぐれども、新潟より長岡までのあひだ、汽船常ヨ往來す、

利根

利根川ハ、阪東太郎と稱し、源を上野の文珠岳ヨリ發し、武藏の境ヨ沿ふて、東ヨ流れ、關宿ヨいたり、二つとあり、一は南ヨ下りて、東京灣ヨ入り、一は東ヨ赴き、絹川とあひせ、常陸下總の境ヨ流れ、銚子の口ヨいたりて、海ヨ入る、此河ハ、通船の便

銚子の口の圖





北川

利もつとも好かれむ、往來の船舶いと志げし、北上川ハ陸奥の界ハ發源し、陸中の川々を合せ、陸前ハ入り、石巻港ハ注ぐ、三陸第一の大河ハして、舟の通ふこと、六十里餘あり、

最上川

最上川ハ羽前ハあり、上流を松川と稱へ、南の境ハ發し、北ハ流れ、西ハまがり、酒田港ハそ、長ハ六十餘里、其流急ハして、舟の通ふこと、三分の一ハすぎず、河底より沙金と出し、又鮭、鱒と産す、

江川

江川ハ、山陰、山陽兩道中、第一の大河ハして、安藝、備後の境ハ發源し、西北ハ流れ、濱田の北、數里の

吉野川

所ハいたり、海ハ入る、其流れ五十里あり、

吉野川ハ、四國三郎と稱し、四國第一の大河ハして、土佐ハ發し、河波の北方を東ハ流れ、海ハ入る、其長さ四十九里、船の通ひよし、

筑後川

筑後川ハ、筑紫二郎ととふ、西海道ハありて、第

筑後川の圖





一の大河ふれども、其長さ三十五里よりすぎず、源を英彦、阿蘇の兩山より發し、西より流れ、筑前、筑後をへ、肥前の境とすきて、海より入る、此他、名高き川を擧ぐれば、畿内より淀川、大和川あり、東海道より天龍川、大井川、富士川あり、東山道より、木曾川、阿武隈川あり、北陸道より射水川、神通川、阿賀川あり、北海道より、天塩川、十勝川あり、紀伊より日高川、紀伊川、熊野川あり、九州より大野川、五箇瀬川、球摩川、川内川あり、

第六 湖

湖

琵琶湖

琵琶湖の圖



湖の大なるものを琵琶湖とす、之よりつぐものを霞浦、猪苗代、八郎瀉、安道湖等あり、琵琶湖は、近江よりありて、周回凡七十三里あり、湖水南より流れて、勢田川とあり、山城より入りて、宇治川とあり、湖のほとりて、景色甚だよるしく、謂ふ

地理の大事 卷之四

五

錦糸閣藏



る近江八景を、湖の西南岸よりあり湖上を、汽船常  
よゆき、一して、北陸、東山、畿内の運輸をよくし、湖  
中より、鮒、鯉、鯔等の魚類を産す、湖邊より漁を以て、  
生計をなすもの多し、

霞浦

霞浦を、常陸の南部よりあり、周回、凡三十六里あり、  
湖の水を、東より流れて、北浦の水と合して、利根川  
より入る、北浦も亦一の湖水よりして、周回、凡十五里  
あり、

猪苗代湖

猪苗代湖は、岩代の中程よりあり、周回、凡十六里、湖  
水西より流れて、日橋川とあり、多くの河を合せ、阿

八郎潟

賀川とあり、越後より入る、  
近ぶる湖上より汽船往來  
し、又其水を東より導きて、  
田畑よりそとぐといふ、

実道湖

八郎潟を、羽後の海岸より  
ありて、周回、凡十五里あ  
り、數多の魚類を生ず、  
実道湖を、出雲よりありて、  
周回十三里あり、連山其  
岸をめぐり、眺望最よし、

猪苗代湖の圖



地理の大要 卷之中 新編



其水東に流れて、中海に入る、  
其他、名ある湖を、下總に印幡沼、手賀沼あり、信濃  
に諏訪湖あり、下野に中禪寺湖あり、陸奥に十三  
瀉、十和田湖、小河原沼あり、加賀に河北瀉あり、

第七 都會

都會

全國中都會の大にして、最賑やかなるものを、三府、  
即ち東京、大阪、京都とす、之に次ぐものも、名古屋、金  
澤、廣島、和歌山、仙臺、熊本等あり、  
東京は、我國の首府にして、武藏の西南部にあり、  
品川灣に臨み、隅田川を帯び、四方四里の大都會

東京

東京日本橋より皇城と望む



り、中央に皇居ありて、多  
くの官省、之を繞ぐり、其  
他、兵營あり、學校あり、病  
院あり、博物館あり、家屋  
の建築皆廣大にして、空  
に聳え、日よ輝き、實に其  
壯觀を極めたり、市街は、  
縦横に列りて、車馬の往  
來、織るが如く、夜を、數萬  
の瓦斯燈暗を照らして、

地理の大要 卷之中 錦森階藏 七



不夜の城かと疑はる、人口殆ど九十萬、商業製造の業いと盛んあり、

上野、浅草、芝等の公園あり、木あり、泉水あり、一として、人の目を悦ばしめざるいふ、貴賤上下のわかちなく、此は遊ぶものたえ間なし、

鐵道を、上野と新橋と、停車場あり、上野より發する汽車へ、中山道及び陸羽と、いたるものよし、其線路、大宮よりいたり、分れて二線とある、新橋より發するものも、横濱よりいたり、とまれり、此府を、元江戸といひ、徳川氏代々此地よりありしが、

大阪

明治元年、今上皇帝、此は都を移させれて、東京となり、玉へり、

大阪を、攝津の東南よりありて、淀川の河口より跨り、溝渠縦横より通じ、橋梁頗る多く、貨物の運輸盛んあり、富家豪商、軒を接し、諸國の貨物、此府より集り、商業の繁昌あり、我邦第一

大阪市の街の圖



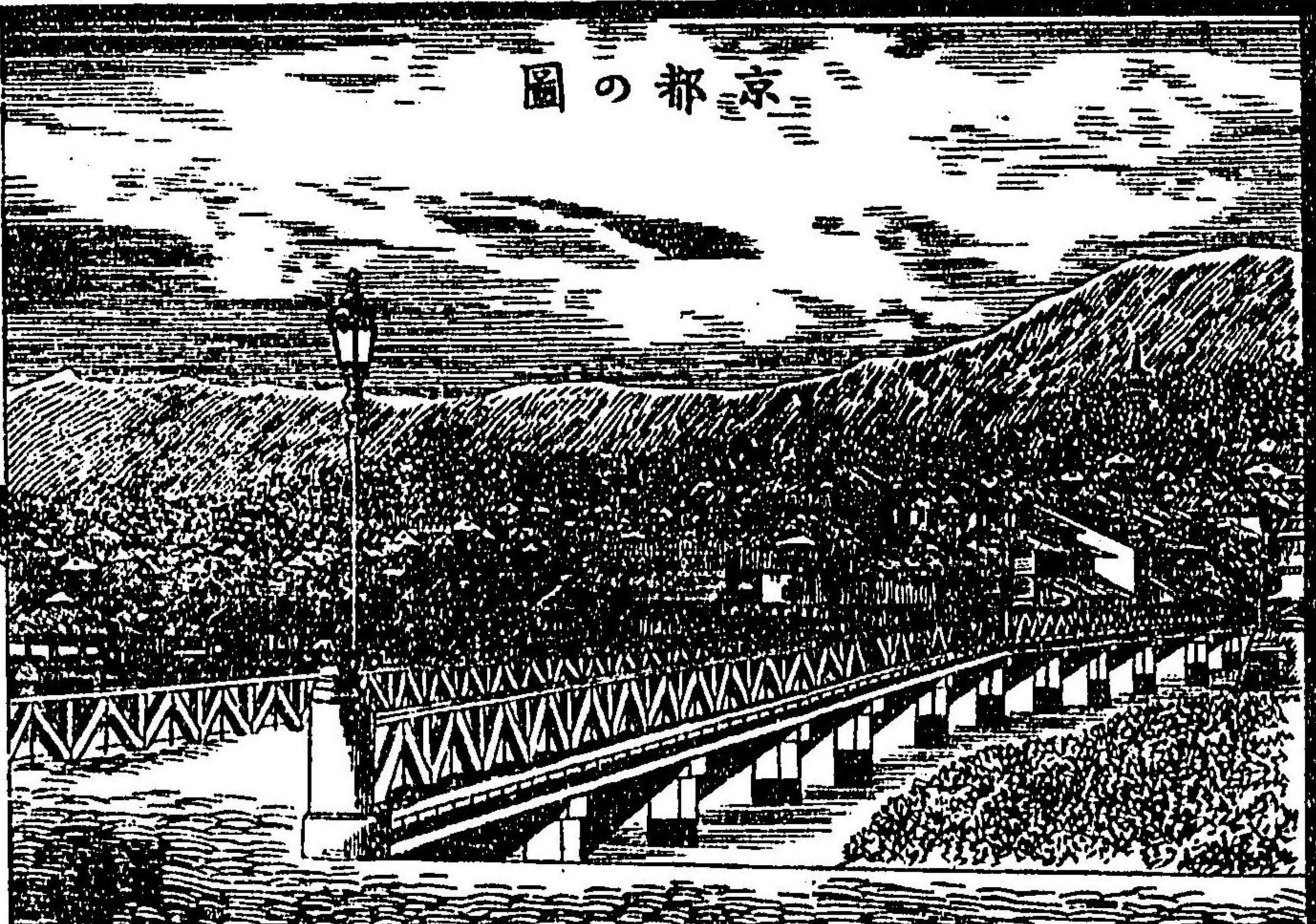


一の地と稱ふ、市中の人口三十萬餘、大阪府廳、造幣局等あり、又天滿天神、天王寺、住吉神社等ありて、公園の設けとす、

此府を古浪速と稱ひ、仁徳帝の都し玉いり舊跡あり、大阪城を太閤秀吉の建築せしものよて、石垣高く、堀深く、其堅固なること、天下第一と稱す、今ハ大阪鎮臺の營所たり、

京都

京都ハ山城の中央ありて、平安城と稱へ、桓武天皇以來、一千七十餘年の帝京なり、鴨川其東を流れ、大井川其西を流る、洛中と分ちて上京、下京



京都の圖

とす、市街の家並、正しくして、道路を坦かよいと清し、舊皇居ハ、中央あり、又京都府廳及び廣大美麗の神社、佛閣數多あり、此府の東を、東山といひ、祇園、清水等の公園あり、其銀閣寺ハ、足利義政の建ると云ふあり、又府の



北と北山といひ、金閣寺あり、足利義満の營む所、其の古雅壯麗、銀閣寺も過ぎたり、又府の西は嵐山あり、櫻花の名あり、高雄山の紅葉を以て著る、以上を、皆洛外の名區にして、四季をりくの遊觀たぐひなし。

名産

名古屋を、尾張とありて、人口十三萬、東西兩京の中央にあたり、其賑かなること、三府もつき、市中富商多く、有名の城あり、名古屋廟、七寶燒等、此地の名産にして、名古屋縣廳及び鎮臺あり、金澤を、加賀とありて、北陸道第一の都會あり、其

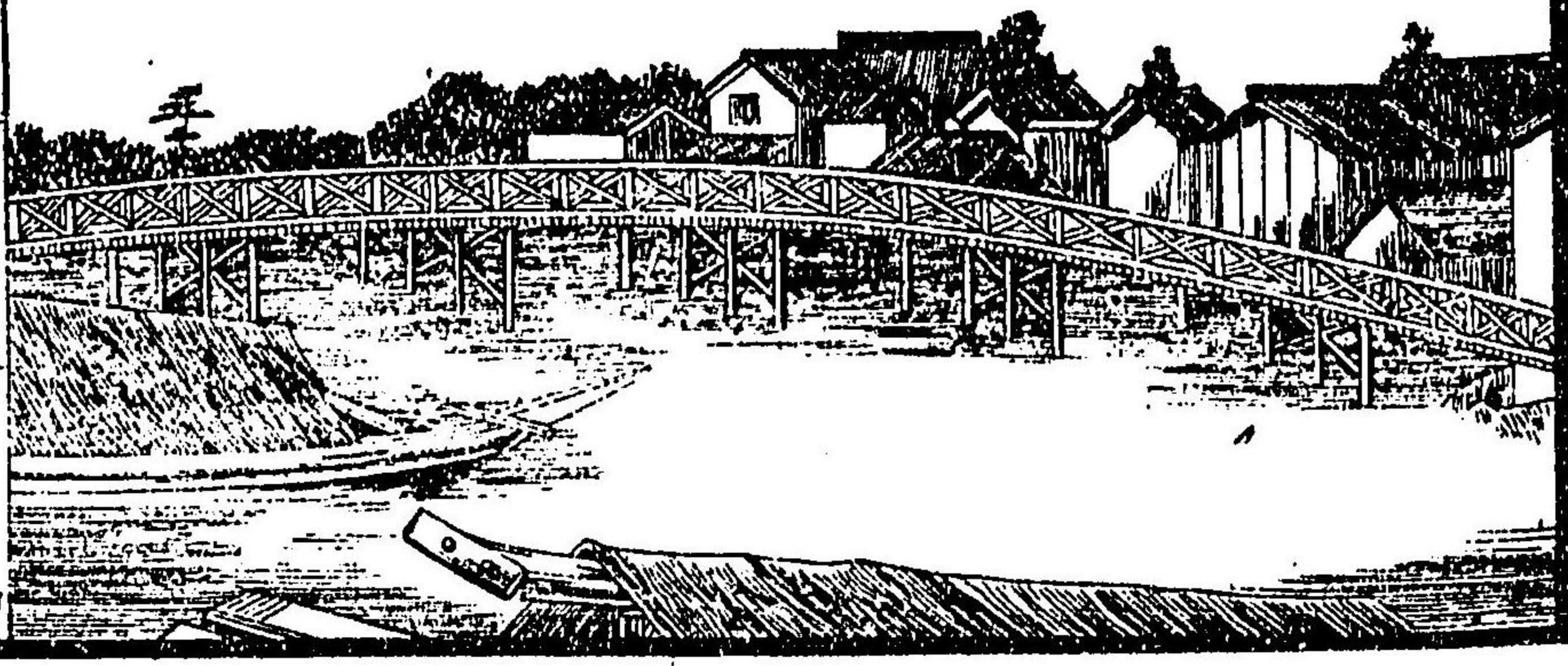
金澤

賑やかあること、名古屋もつき、人口十萬七千餘、石川縣廳あり、此地の産物、九谷燒、象眼細工の銅器等あり、

廣島

廣島の安藝とあり、其賑かあること、大阪より西に在て、第一とす、可部川其市中を流れて、海に入る、運輸の便よく、一晝夜

廣島猫橋の圖





和歌山

和歌ノ浦之圖

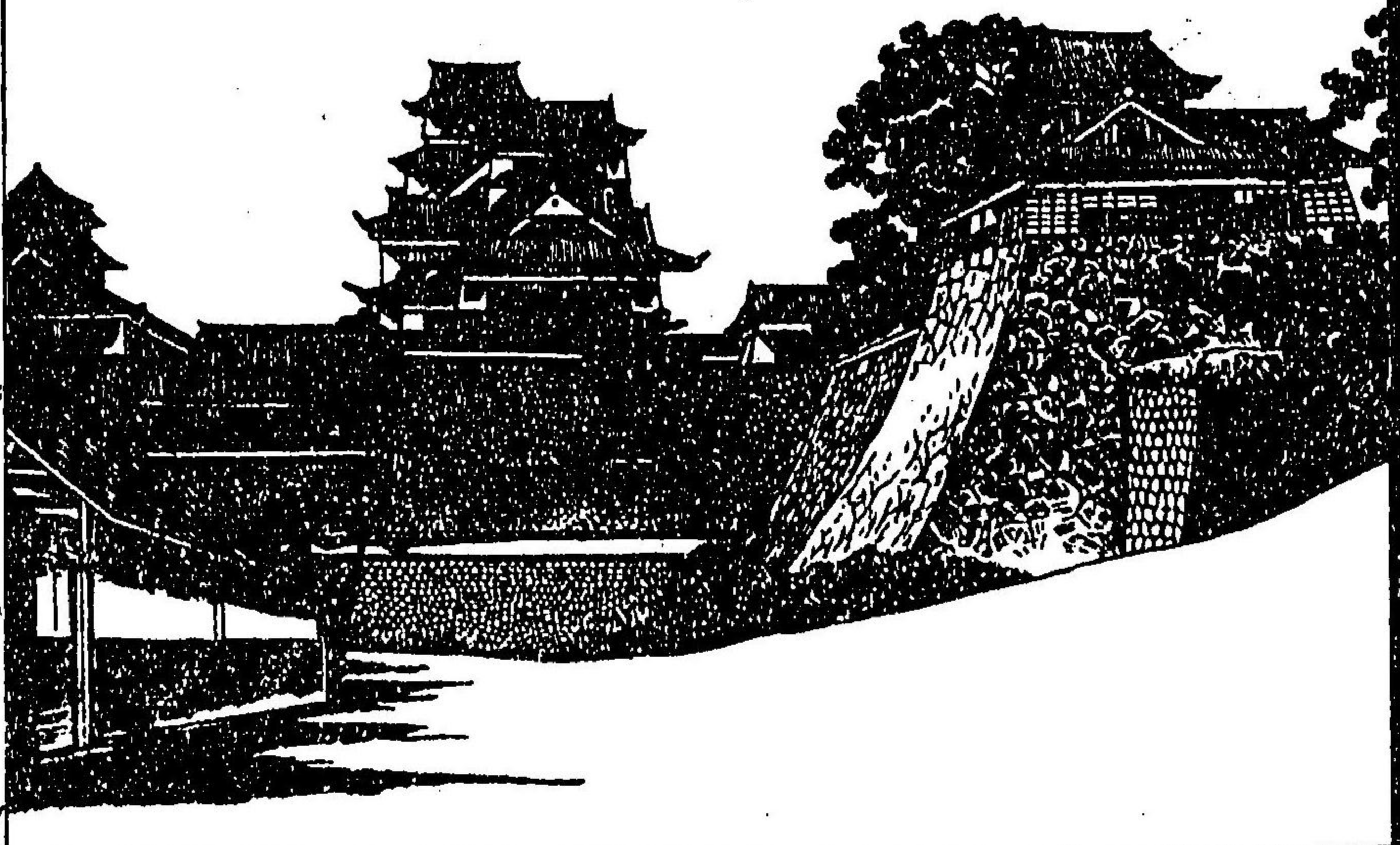


よして、大阪に達すべし、  
廣島縣廳及び鎮臺あり、  
其近海において、盛んに  
牡蠣と産す、  
和歌山を、紀伊にありて、  
人口六萬餘、和歌山縣廳  
あり、此地を、海と陸との  
運輸、最も便利あり、紋羽  
織、緞通、蠟燭等の名産あ  
り、

仙臺

仙臺を、陸前にあり、東山  
道第一の都會よして、人  
口五萬五千、市街をいと  
賑やゝあり、宮城縣廳あ  
り、仙臺鎮臺あり、仙臺平、  
埋木細工を、此地の名産  
ふり、此近傍に、米穀、生糸  
及び馬を、産する多し、  
熊本の、肥後よあり、市街  
は白河の下流の北岸よ

熊本の城の圖



熊本



あり、人口凡四萬五千餘、熊本縣廳あり、其城ハ加藤清正の築く處ニして、今熊本鎮臺の營所ナリ、此地方ハ肥後米といひて良米と産す、

其他、名ある都會ニして、縣廳所在の地ハ、東海道ニて、駿河の静岡ニ、静岡縣廳あり、伊勢の安濃津ニ、三重縣廳あり、甲斐の甲府ニ、山梨縣廳あり、下總の千葉ニ、千葉縣廳、常陸の水戸ニ、茨城縣廳あり、皆賑かふる都會ナリ、

東山道ニてハ、近江の大津ニ、滋賀縣廳あり、美濃の岐阜ニ、岐阜縣廳あり、信濃の長野ニ、長野縣廳

あり、上野の前橋ニ、群馬縣廳あり、下野の宇都宮ニ、栃木縣廳あり、岩代の福島ニ、福島縣廳あり、陸中の盛岡ニ、岩手縣廳あり、陸奥の青森ニ、青森縣廳あり、羽前の山形ニ、山形縣廳あり、羽後の秋田ニ、秋田縣廳あり、皆賑やかニして、人口多き地ナリとす、

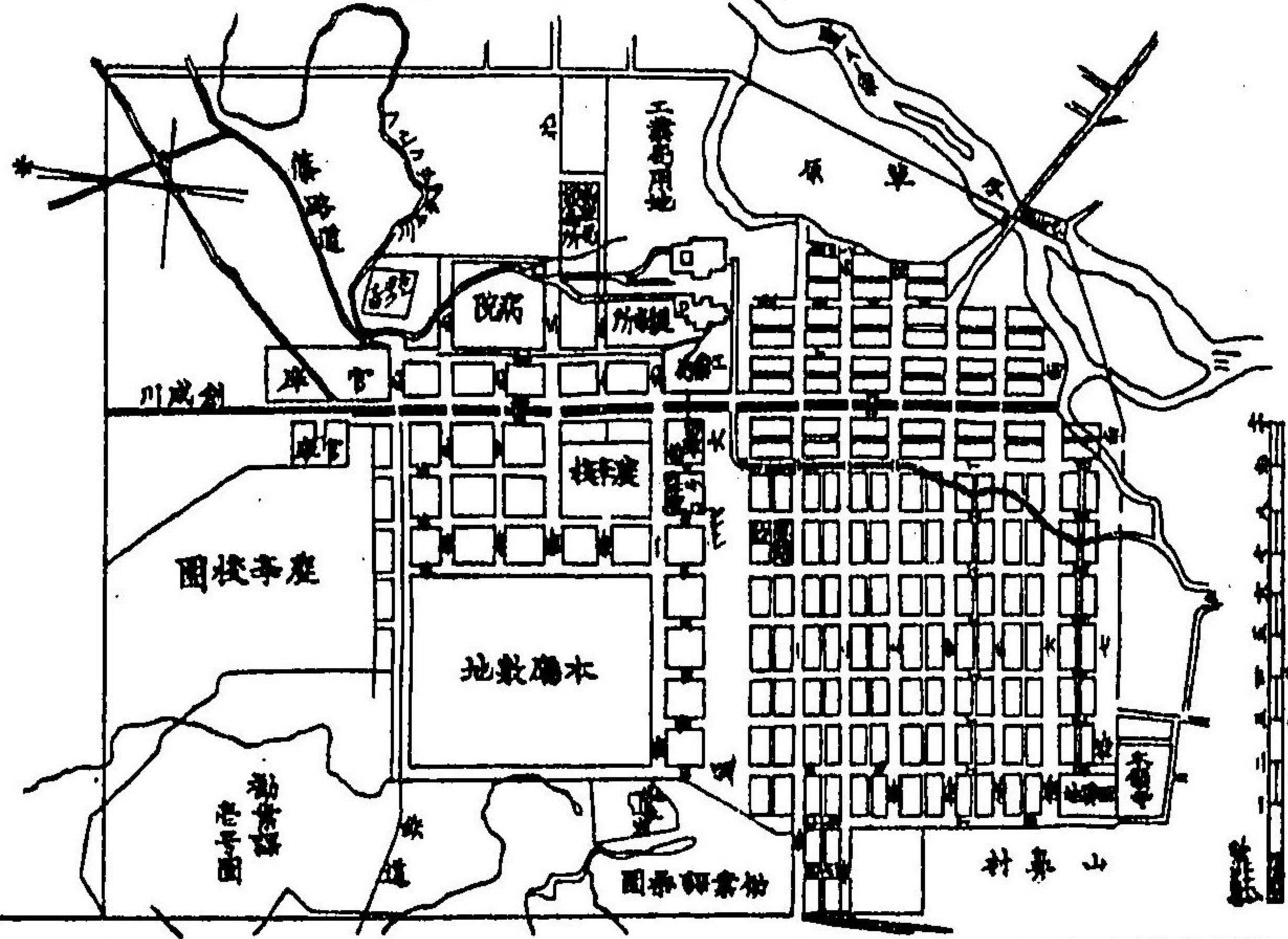
北陸道ニありて、縣廳のあるところニて、越前の福井ニ、福井縣廳、越中の富山ニ、富山縣廳、越後の新潟ニ、新潟縣廳あり、

札幌

北海道の札幌ニ、北海道廳のあるところニして、



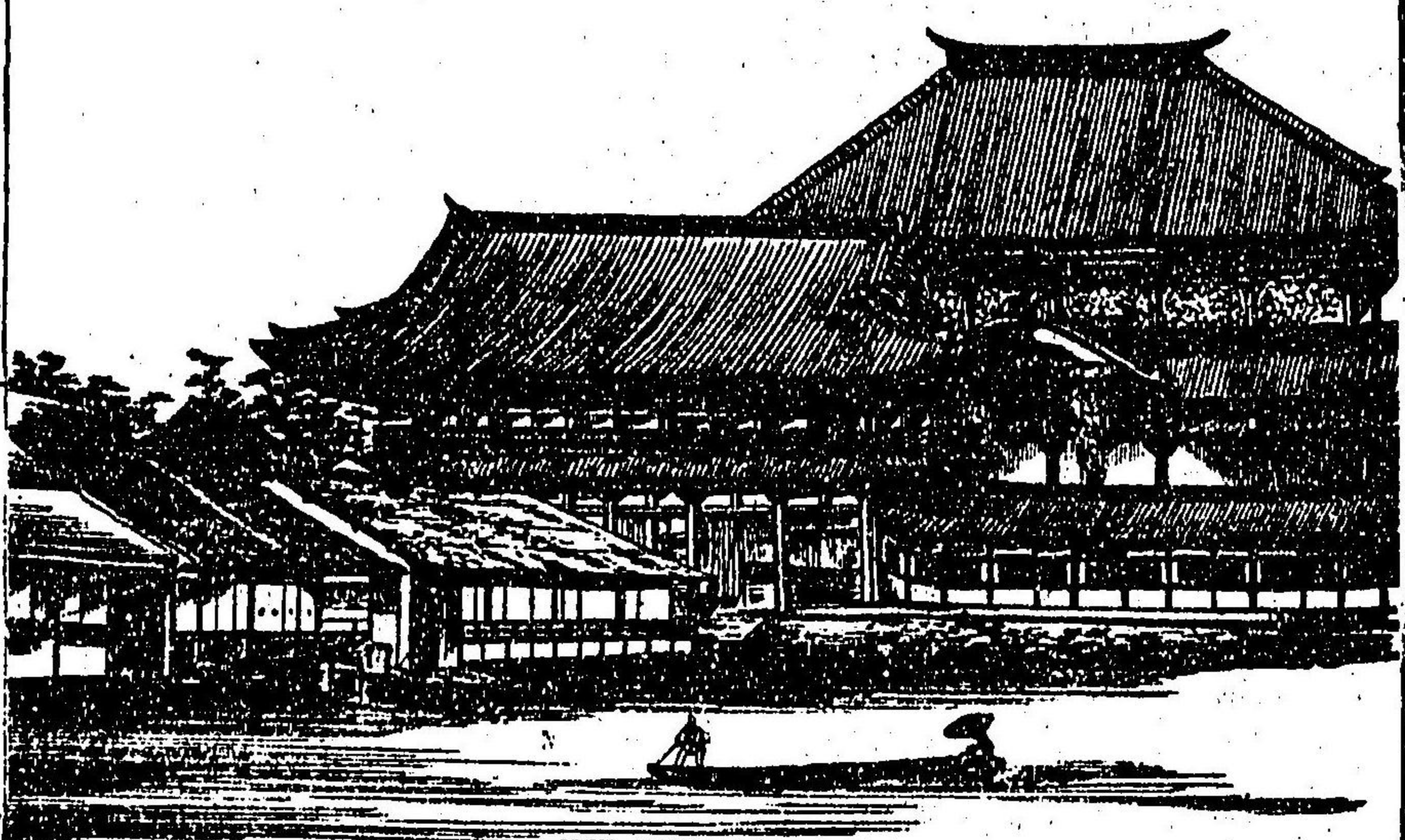
北海道札幌市街之圖



石狩川の下流はあり、人口一萬餘、これより小樽、幌内は達する、鐵道あり、此他、福山、小樽、根室等の都會あり、畿内にて、大阪、京都二府の外、有名の都會は、大和は奈良、和泉は堺あり、奈良は、大佛を以て、あらはれ、堺は鐵製の器具を造

るを以て名あり、攝津の神戸は、兵庫縣廳あり、山陰、山陽兩道中にて、縣廳所在の地は、因幡の鳥取は、鳥取縣廳、出雲の松江は、島根縣廳、備前の岡山は、岡山縣廳、周防の山口は、山口縣廳あり、其外播磨は、姫路あり、備後は、福山あり、長門は、萩あり、

奈良大佛堂の圖





いづれも人口多き地あり、南海道ありては、阿波の徳島、徳島縣廳あり、此地方はよき藍を産す、伊豫の松山、愛媛縣廳あり、土佐の高知、高知縣廳あり、此地方を多く紙、堅魚節を産し、其海よりハ珊瑚を出す、

西海道ありてハ、筑前の福岡、福岡縣廳あり、肥前の佐賀、佐賀縣廳あり、豊後の大分、大分縣廳あり、薩摩の鹿兒島、鹿兒島縣廳あり、此地方はよき砂糖と煙草とを産す、

第八 岬 灣 灘

我國ハ四方ハ海とめぐらして其海岸ハ屈曲出入おなく、數多の岬灣となせり

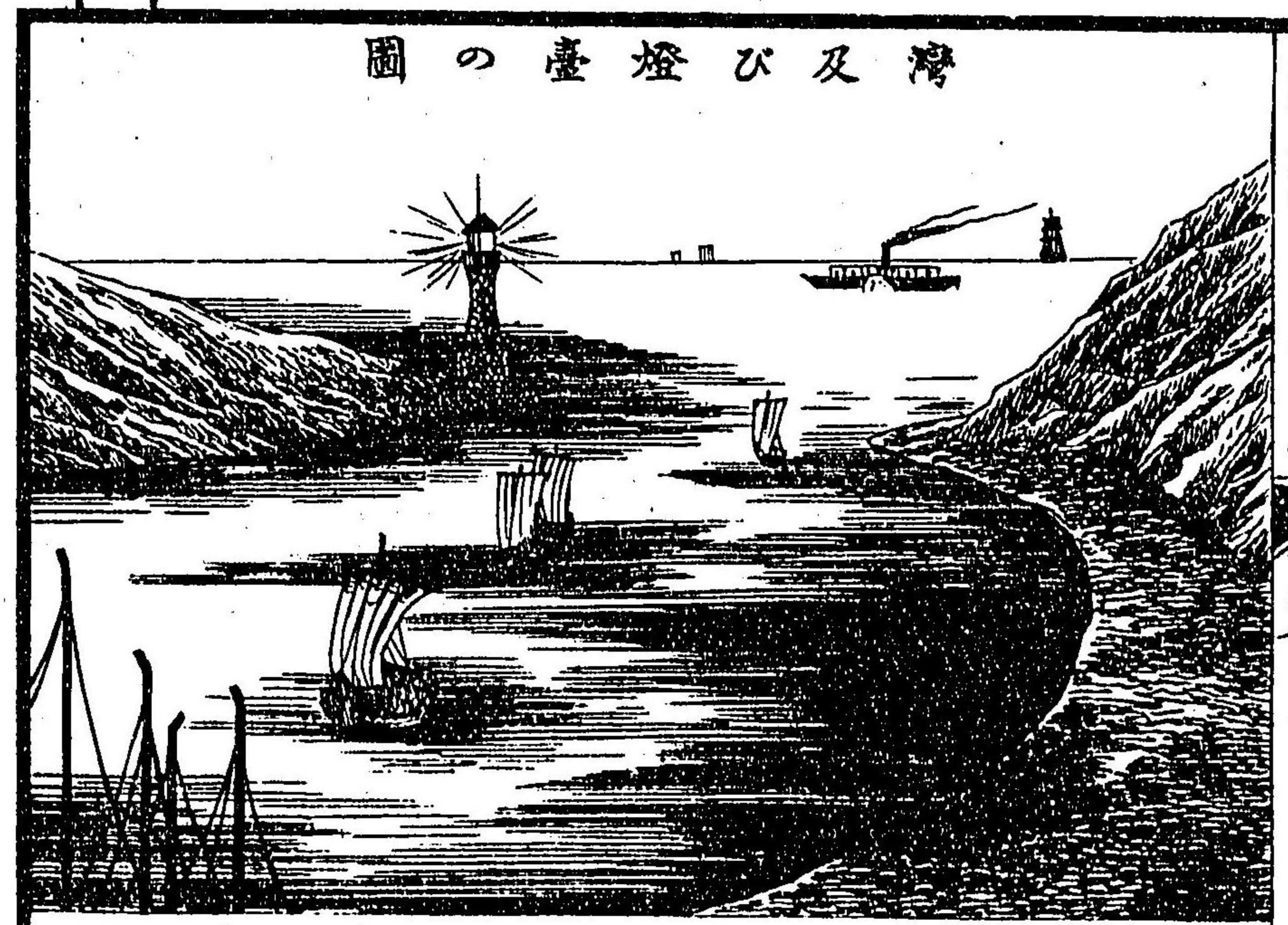
岬

岬の名高きもの東海道ありては志摩の大王崎、尾張の師崎、三河の伊良胡崎、遠江の御前崎、伊豆の石廊崎、相模の真鶴崎、安房の野島崎、洲崎、下總の大吠岬あり、東山道ありては陸前ハ黒崎あり、陸奥ハ尻矢、大間、龍飛の三岬あり、羽後ハ入道岬あり、北海道ハ渡島、白神、恵山の兩岬あり、膽振ハ江巴岬あり、日高ハ襟裳岬あり、根室ハ納沙布岬あり、北見ハ知床宗谷の二岬あり、後志ハ



灣

灣及燈臺の圖



積丹岬あり、北陸道より、能登より珠洲岬あり、山陰道より丹後より經岬あり、南海道より紀伊より潮岬あり、伊豫より佐田岬あり、土佐より蹉陀岬、室戸岬あり、西海道より豊後より佐賀關岬、大隅より佐多崎、薩摩より開聞岬あり、灣の大なるものより東海

灘

道より東京灣あり、駿河灣あり、伊勢海あり、東山道より松島灣、津輕灣あり、北海道より渡島灣、内浦灣、根室灣、小樽灣あり、北陸道より七尾灣あり、山陰道より與謝海あり、畿内より大阪灣あり、又南海道より土佐灣、西海道より筑紫海、鹿兒島灣あり、其他小灣頗る多し、常陸の海と、鹿島灘といひ、相模の海と、相模灘といふ、伊豆より志摩といたる海上七十五里之を遠州灘といひ、波濤常よりあらく古より航海より亦やめり、紀伊の海と、紀州灘、播磨の海と、播磨灘と



いひ、中國、四國の間の海  
 我、瀬戸内といふ、其中は  
 水島灘あり、又伊豫の海  
 と、燧灘といひ、其西を硫  
 黄灘といひ、周防の海と、  
 周防灘、長門の海と響灘、  
 筑前の海と玄海灘、日向  
 の海と、日向灘といひ、石  
 見の海と、石見瀉といふ、

第九 港

達州灘の圖



港

横濱之圖



横濱

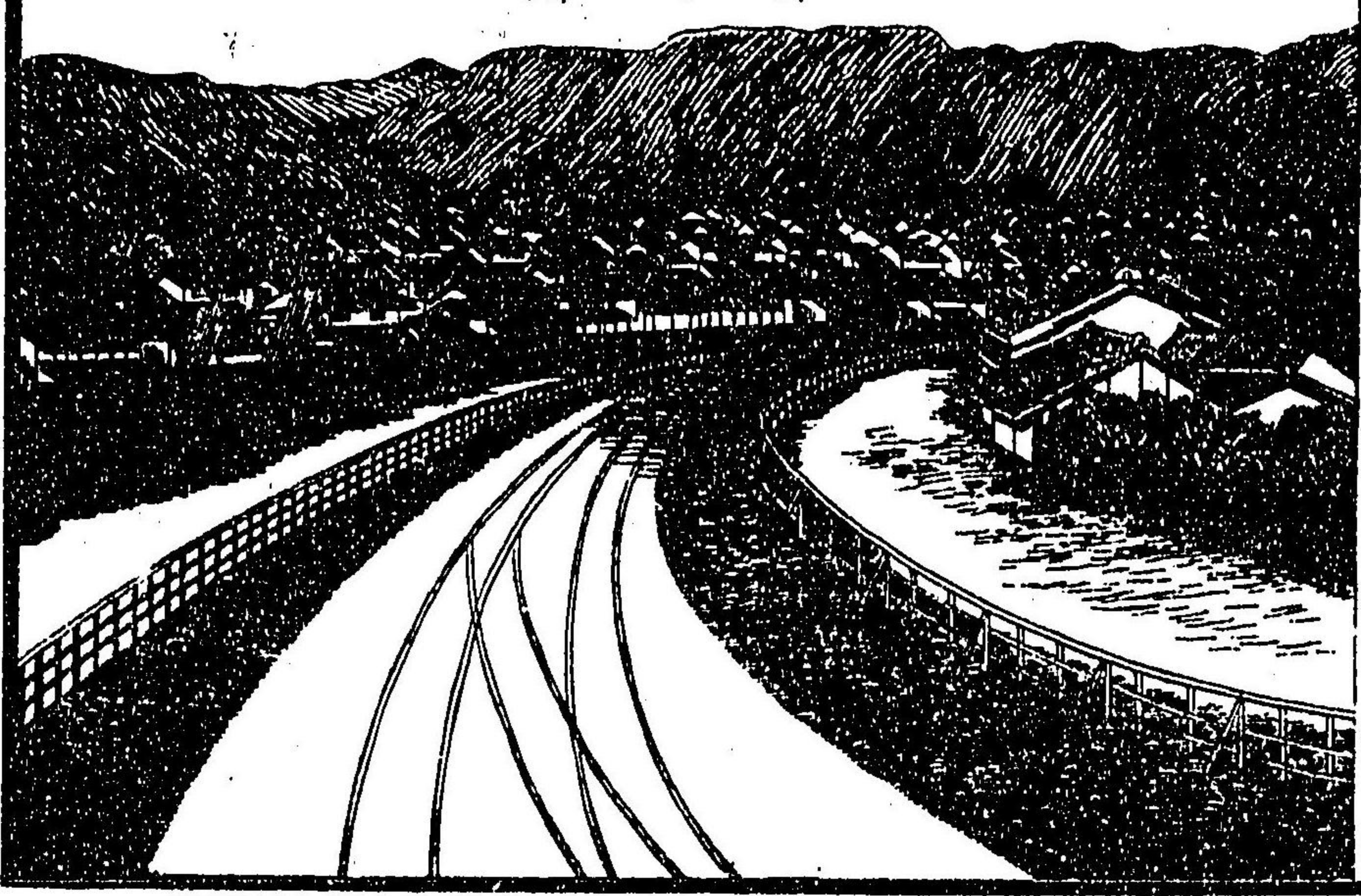
我國中、港の大にして、船  
 の泊るよよきものを、横  
 濱、神戸、長崎、新潟、函館の  
 五港あり、内外の船、常よ  
 出入りて、絶ゆるとき、亦  
 一、其他、下田、鳥羽、敦賀、石  
 巻、下關等、ハ、之よ次ぐの  
 港あり、  
 横濱ハ、武藏よありて、東  
 京よ去る七里、鐵道相通



ト、一時間と費やさず  
て達すべし、此地を外國  
との交易場とて、港の内  
を水深く、軍艦商船常  
あつまりて、其賑かなる  
こと、五港中の第一あり、  
人口六萬四千餘、神奈川  
縣廳あり、  
神戸港を、攝津とありて、  
湊川をはさみて、兵庫と

神戸

神戸の圖



長崎の圖

長崎



つゝま人口四萬餘、港の  
内廣くして、數百の船を  
泊むるに足れり、兵庫縣  
廳あり、湊川神社、福原帝  
都の趾と、其あひだにあ  
り  
長崎港へ、肥前とあり、港  
の口と、伊王島あるを以  
て、風波のうれひなく、内  
外の船常と集れり、長崎

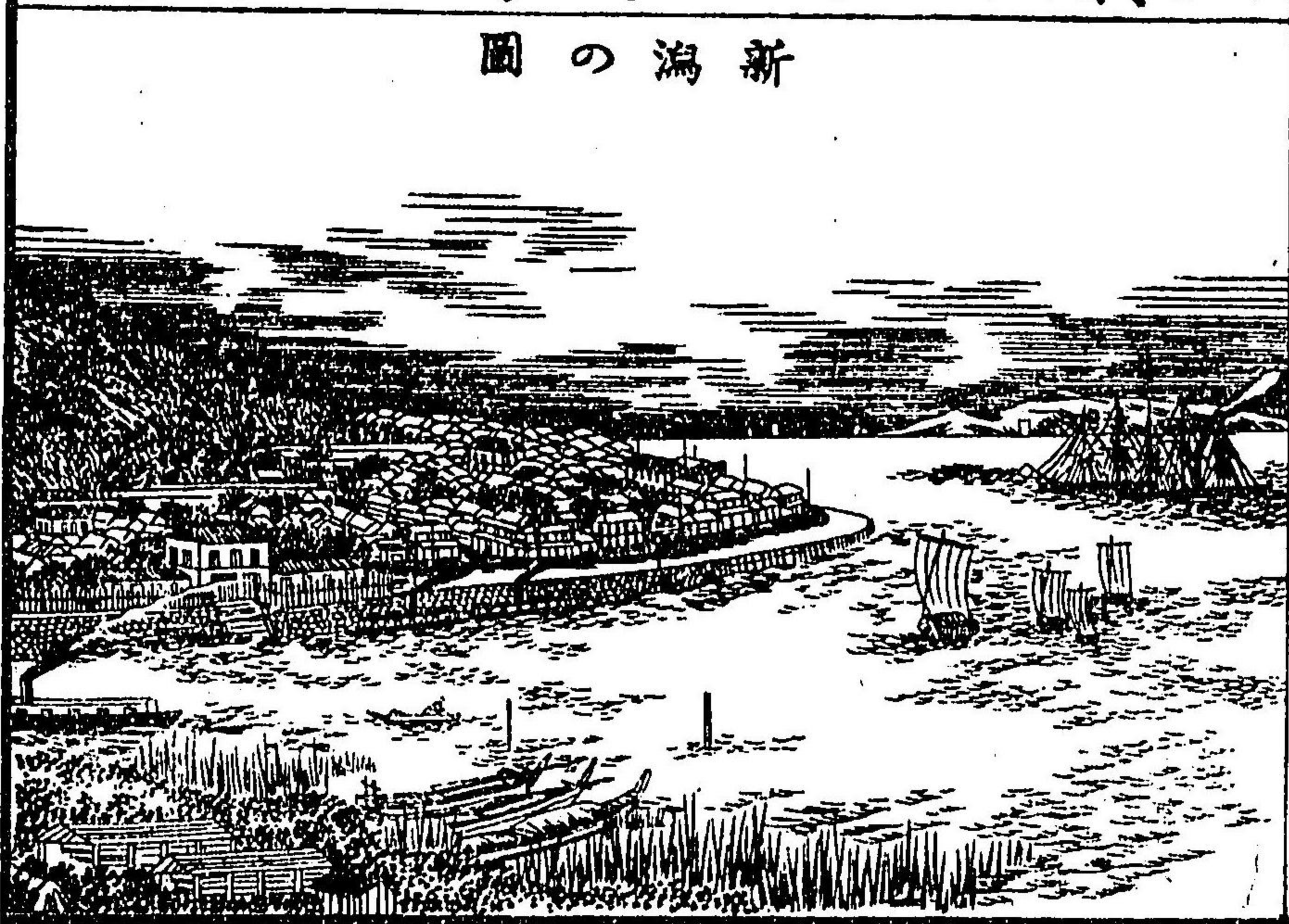


縣廳あり造船所あり此地を寛永年中より支那和蘭と交易を開き一とこるふり人口三萬九千あり

新潟港を越後よりありて信濃川の河口よのをみ人口三萬三千餘市中賑やかよりて富家多し其港の内を年より埋まりて

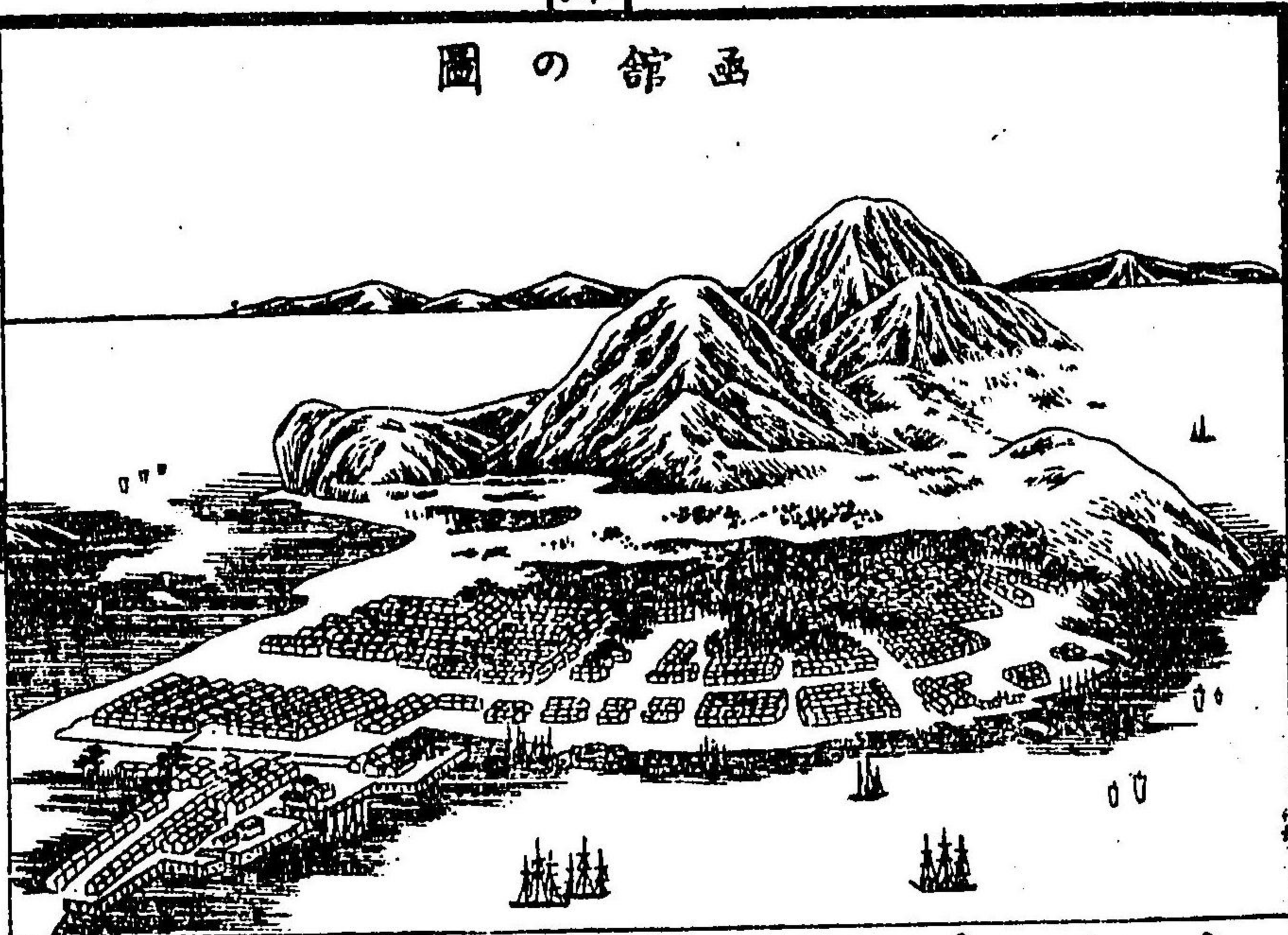
新潟

新潟の圖



函館

函館の圖



大船を泊するより便ならず凡て此海上を冬よりたれて風つよく波おらく船舶往來より亦やむといふ  
函館港を渡島よりありて人口二萬三千餘灣内水深く船の出入甚だ便よりて常に交易さかん



其他、東海道の海岸より伊豆より下田港あり、碇泊  
より志摩の鳥羽へ、名高き港よりして、大船を泊  
すべし

長門の下、關を、山陽道中の大港よりして、船舶常より  
あつまれり、敦賀へ、越前よりありて、北海のよき港  
あり、此港汽車の近江、美濃より通するあるを以て、  
市中よりぎやかあり、陸前石巻へ、東海中の大港より  
して、北上川の口よりあり、

第十 氣候

氣候

氣候ハ、温帯の内よりあるを以て、四時正より、寒暖

概ね宜しきを得たり、但し南の海岸は熱帯の風  
潮きたるを以て暖かき、北の海岸は寒帯の風潮  
よりくるを以て寒し、故に西海道、南海道の南部  
は、暖氣最つよくして、寒氣よわく、冬時僅かに雪  
と見るのみ、東海道は之より次ぎて、氣候頗る温和  
なれども、春より至りて、風少く起る、畿内は寒温  
共に中和あり、山陽道は地氣静かよりして、風少  
く、東山道へ、寒氣厳しく殊に陸羽の地へ、寒風強  
く、雪ふること極めて多く、春の半ばよりいたるも、尚地  
上より氷雪と見る、北陸道へ、冬時甚だ寒冷よりして、



北海道景色の圖



琉球景色の圖



平地と雖も、雪積ること一丈餘に及ぶ、山陰道へ北陸道に次ぎて、寒氣強し、北海道ハ、寒氣最烈しく、其東北の國ハ、特に甚だし、冬時大雪、屋を封ト道と埋め、戶外に出づることを得ず、春晚雪とくるといたり、花木一齊に花さくといふ。

第十一 地味

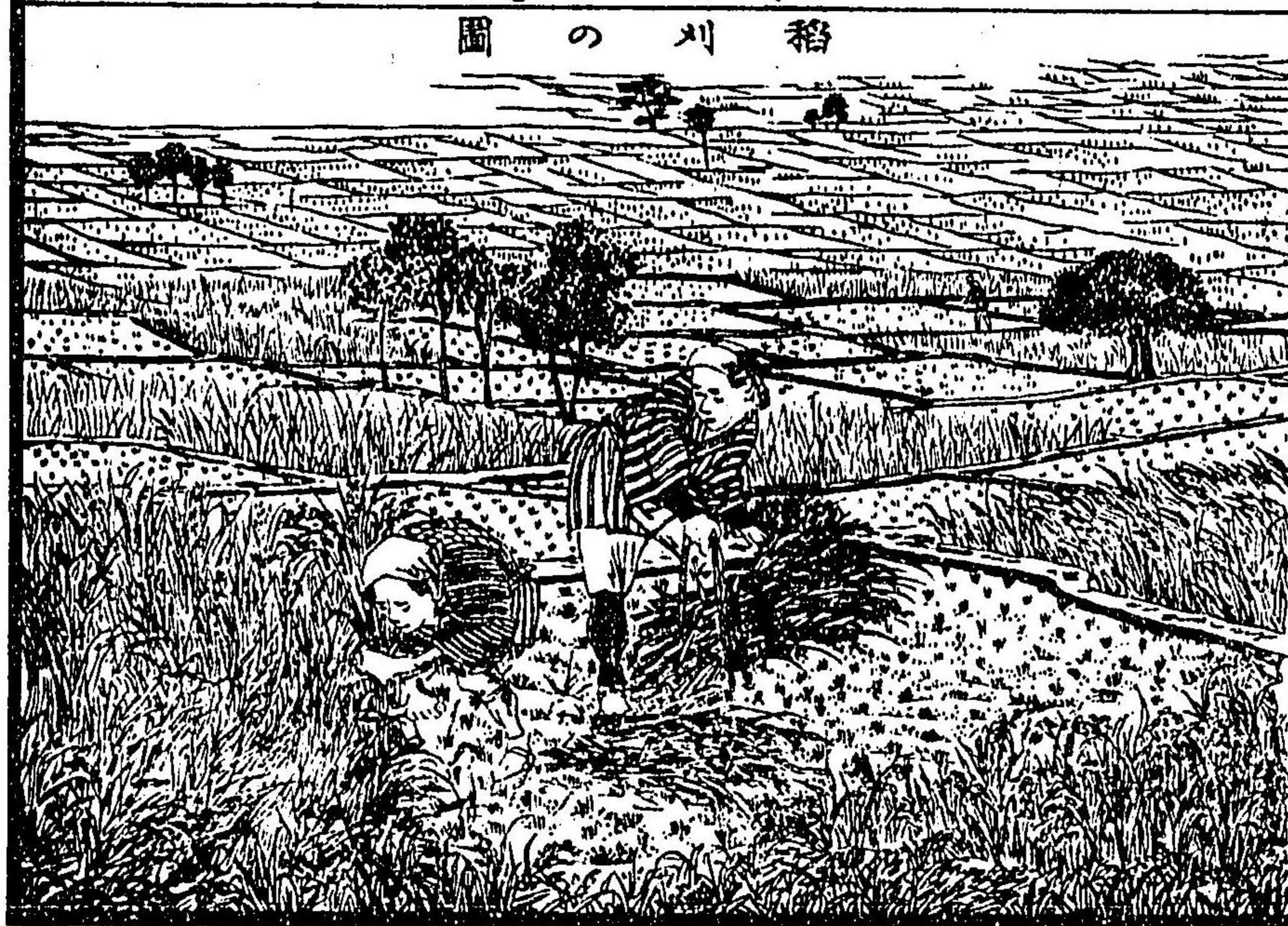
地味

我國ハ、古瑞穂國と稱し、地味一般に肥沃にして、植物繁茂し、五穀蔬菜豐熟し、到る處田圃を見ざるふし、畿内は於て、淀川、大和川、下流の低地ハ、豐饒にして、能く穀物、綿茶を産す、東海道に於て、尾張、武藏、伊勢の地ハ、五穀、綿茶、果物等に適し、其他の海岸ハ、肥瘠相半ばりて、多く桑茶を植う、上總、下總ハ平地なれども、地味良からず、東山道に、琵琶湖々邊の地、美濃、上野の南部等ハ、地味豊沃、穀類に富み、陸前の平地ハ、其疆界頗る廣く、土



地肥沃よりて、穀物の産出諸國は冠たり、飛驒、信濃、上野及び阿武隈川兩岸の地、仙臺、秋田等の地方は、桑を植ふ、養蠶の業盛んあり、北海道は、石狩の平野、渡島、後志、膽振根室の海岸等は、沃土多し、北陸道は、越後、越前の低地、最肥沃なり、加賀、越

稲の川の圖



中等へ平地あれども、概豊饒ならず、山陰道の地へ、一般は瘠土多く、獨伯耆の低地のみ、沃饒ありとす、山陽道の地は、山陰道に比すれば、地味肥えたり、就中播磨を、沃地多し、然れども、安藝、長門を、地味良からず、南海道はありて、紀伊川、吉野川兩岸の地味、共に肥えたり、又上佐へ、海岸を除くの外、一般は沃土あり、西海道を、肥前の佐賀地方、肥後の平地を、最肥沃よりて、其米穀は、精良を以て世に名あり、而して全道の土地、豊饒よりて、穀類、甘薯、烟草、茶、藍、及び諸果物等の、陸産物は甚だ



富めり、

第十二 物産

**物産**  
 米穀ハ、我國の一大産物にして、其産出頗る夥シ、  
 生糸、茶も亦、産出多く、實ニ貿易品の第一ニ位す、  
 其他、織物、銅器、漆器等と、重なる製造品にして、外  
 國ニ輸出せり、

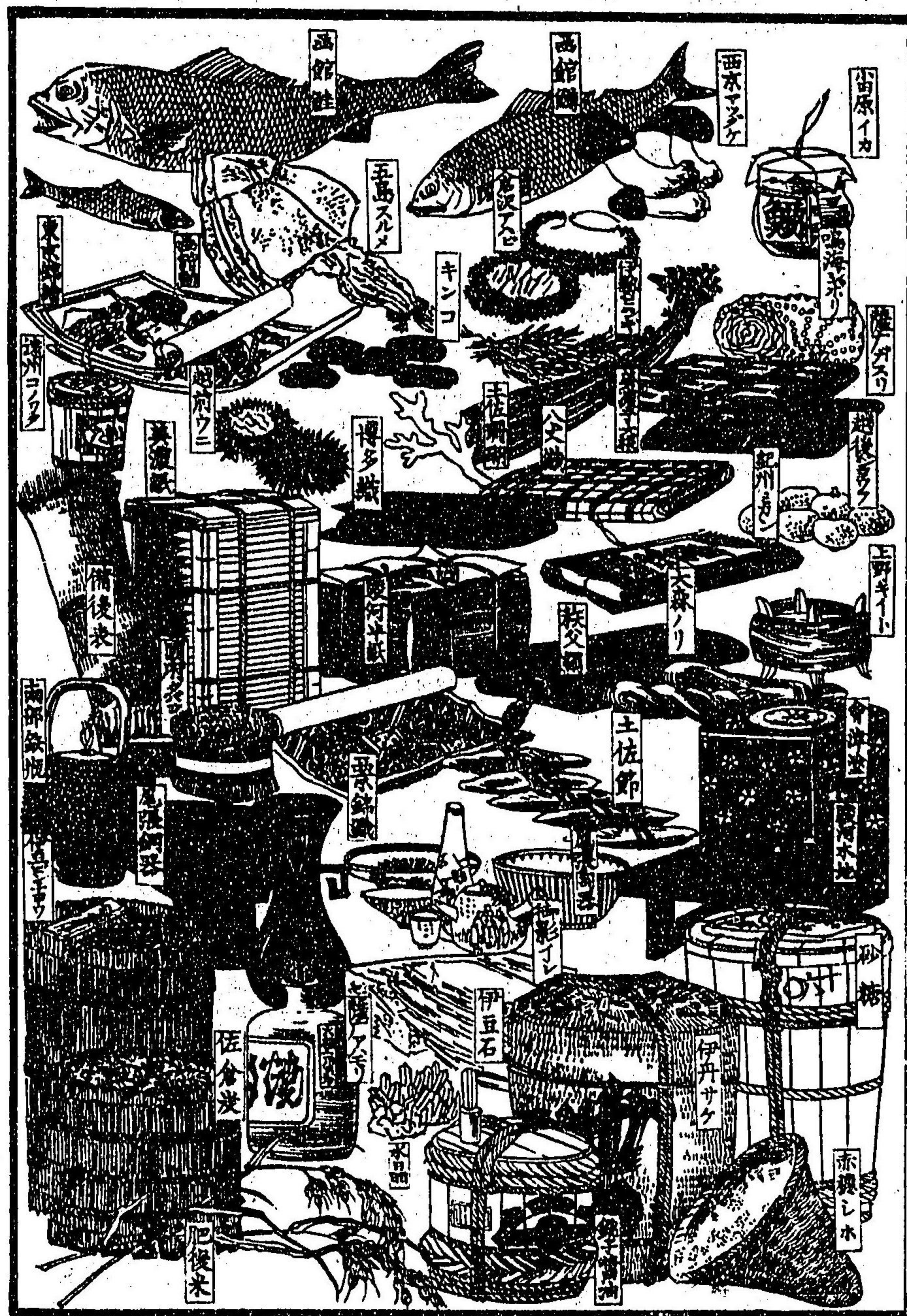
**生糸**  
 生糸ハ、多く東山道、北陸道の諸國にて製造し、或  
 ハ織て絹とあり、或ハ外國ニ輸出さす等、其國益  
 たる實ニ少ふるらずとす、就中、若代の福島、上野  
 の高寄地方と、巨大の製糸場ありて、其製造最盛

ふり、其他、飛驒、信濃、陸前、陸中、兩羽の地も、産出の  
 糸頗る多し、

**茶**  
 茶ハ、生糸ニ次ぐの國産にして、到る處之を製せ  
 り、而して其佳品と、山城、宇治の産と第一とし、近  
 江の信樂、武藏の狹山、駿河の安部、伊勢の菰野等  
 之ニ次ぐ、皆有名の産地にして、其製造亦多し、

**織物**  
 織物を、京都の西陣織、筑前の博多織と、最精巧と  
 す、上野の桐生織、武藏の秩父絹、甲斐絹、越後縮、筑  
 前の博多織等は、其製造頗る多く、内外ニ賣取け  
 り、其他、薩摩の上布、周防の岩國縮、播磨の明石縮、





大島木綿、河内の木綿、近江の近江晒、濱縮緬、伊勢の津戾子、松坂縞、尾張の鳴海絞、下總の結城紬、及び陸前の仙臺平、羽前の米澤糸織、羽後の秋田畝織等、ハ皆各地の名産ナリ、

陶器

陶器ハ、肥前ニ有田、伊萬里、唐津あり、加賀ニ九谷焼あり、精且つ美ヨシテ、内外人の賞翫する處ナリ、山城ニ清水焼、栗田焼あり、伊勢ニ萬古焼あり、尾張の七寶焼、瀬戸焼、常滑焼、備前の伊部の陶器、安藝の加茂焼等、其名皆高シ、

漆器

漆器の有名なるものハ、岩代の會津塗、羽後の能



鑿

代塗能登の輪島塗、駿河の駿府塗、陸奥津輕の殻塗等よりて、銅器の高名ふるものゝ、加賀の象眼細工、越中高彫等、巧緻を極む。

鐵器

鐵器の著名ふるものは、和泉の堺、備前の長船、美濃の關の刀、劔、打物ふり、又下野佐野の鍋釜、陸中盛岡の鐵瓶等も、亦一の名品なり。

紙

紙ハ、美濃紙、越前奉書、加賀の杉原、越中の鳥子及び駿河半紙、土佐半紙、磐城半紙等ハ、皆其國々の名産ふり、其他大和の吉野紙、伊豆熱海の雁皮紙等あり、武藏の王子の製紙場よりては、盛んに洋紙

と製造す。

酒

酒ハ、攝津の伊丹を以て第一とす、尾張知多郡の酒、備後鞆の酒、美濃の養老酒、下總流山の味醂、薩摩の泡盛等、其名高し、又伊勢三河の味噌、下總野田の醬油、播磨の龍野醬油等ハ、亦一種の名品ふり、其他各地産物あり、阿波の藍、讃岐の砂糖、薩摩大隅、常陸の烟草、備後の壘表、紀伊の蜜柑、武藏の品川海苔等、是皆有名のものとする。

海産

我國頗る海産物に富み、沿海の各地、鯛、板魚、鱈、鱒、鱈、鮓、鰻及び鰯、鮓、鱒等と産し、鱈節、乾魚、鰻、乾鰯、乾



鮑、海參等を製す、其他海草類、許多ありて、内國人の食料に供し、又外國に輸出す、東海道の海灣より、漁するもの、鯛、鯉、鰈、鮠、鰻、鮓、鮒、就中相摸の鎌倉鮓、駿河の興津鯛、伊勢の時雨蛤等は、世人の佳味と稱するものあり、九十九里の濱、鹿島浦に、鰻を漁すること夥しく、魚油とふし、干鰻とふすもの、數十萬石、實に東海の一大産物なり、東山道の、東海岸に、漁業盛なれども、西北海岸に、冬時浪あらく、漁業とふし難し、磐城の濱に、多く

鯉、鰻と産し、鯉節、干鰻を製す、其沿海の地、鯛、鯉、鰈、鮠、鮓、鮒及び海參、昆布等の産あり、北海道に、最海産物は富み、鮓、鮓子と第一とし、鮓、鰻、鯉、鮓等を産し、又昆布の良品と出す、是を以て、夏秋の候にいたれば、船舶海岸にあつまりて、甚だ賑かなり、又海獸を産する多く、内浦灣にて、脰、豚獸を捕へ、得撫島にて、臘虎を獵し、千島及び北見にて、鯨を漁す、北陸道に、若狭の鯛、鰈、能登の鰈、鯨、海藻、越後の鮭、鱈、佐渡の海藻等、海産物の重なるものなり、其



海は、大なる鯨ありて、時々小舟を覆すことありといふ、

山陰道は、鯨、鯖、鯛、烏賊等の海産あれども、漁業盛んならず、唯隠岐は、其土瘠せて、耕作に適せざるを以て、住民多く漁と業とし、鰯、鮑、海參、和布、荒布等と産す、

山陽道は、内海に濱するを以て、大魚を産せず、鯛、鯨、海參、烏賊等あり、廣島近海は、牡蠣と繁殖し、長門の海上にては、鯨と漁す、

南海道は、漁業最盛んなり、就中紀伊、土佐の海岸

鹽

よては、鯛、鯉、鯨等を漁し、熊野浦にては、鯨獵殊に盛んなり、又土佐の鯉節と名産と稱す、西海道も亦漁業盛んなり、中にも豊後の佐伯は、九十九浦ととまへ、多く鯉、鯉、鰻等を漁す、壹岐、對馬其他の諸島も、海産多し、五島は、鯨獵殊に盛んなり、

全國の海岸、到る處海水を汲みて鹽を煮る、然れども、其製鹽の盛んなるは、内海に濱するの地なり、殊に播磨、周防及び讃岐の海岸は、良好の鹽と産し、中にも、赤穂鹽、精良の名あり、齊田鹽之に



次ぐ

第十三 戸数人口

人口

我國の總戸数は七百六十七萬餘、人口は三千七百四十五萬餘あり、畿内は人口最りげく、東海道之に次ぎ、山陽道、南海道、北陸道、西海道又之に次ぎ、山陰道、東山道は又其次ふり、北海道にいたりては人口最少ふくして、全道十六萬八千人にすぎず、

第十四 交通

交通

全國の地形、細長く、四面海にまかれ、又國中、舟

鐵道

の往來する河少ふならず、且つ鐵道年をおふて、其線路をのぞく、海と陸との運輸、益便利をいたらんとす、又郵便あり、電信ありて、各地の音信を便にせり、

鐵道の東京に起るものは、南は海岸に沿ふて、横濱港に至り、北に至るの線路は、大宮に至り、別れて二となり、一は東北に走り、下野、宇都宮を経て、將に陸羽に至らんとし、一は西北、上野の前橋、高寄に達し、尚進んで、日其線路を延長す、又大坂に起るものは、西神戸港に達し、南は堺に至り、東



北は、京都を経て、近江の大津に至る、大津より汽船に乗じ、琵琶湖を航し、長濱に至れば、鐵路、北は越前の敦賀港に至り、東は美濃の大垣に至り、又北海道石狩札幌に至るもの、ハ、西北は後志の小樽に至り、東北は石狩の幌内に至り、

國道

我國の國道は、東京より起りて、四方に通ず、其大なるものと擧ぐれば、西南はいたるものは、東海道の海邊に沿ふて、静岡、名古屋を経て、近江小入り、京都を過ぎ、大坂に至り、其れより、山陽道の海岸に沿へ、姫路、岡山、尾道、廣島、岩國を経て、赤間關に

達し、海を渡りて、豊前の小倉より、佐賀を過ぎて、長崎港に至る、此陸路三百四十五里とす、又東京より、東北諸國に至るものは、宇都宮、福島、仙臺、盛岡を経て、青森に至り、此陸路百九十一里、又北陸道に至るものは、高崎より分れて、二とあり、一は直ちに新潟に至り、一は信濃の長野を経て、越後の高田に至り、其他、道路、縦横は相通ぜり、郵便は、全國處として通ぜざるなく、線路の總計、二萬八百二十里に至り、二錢の郵券を貼用すれば、西の隅より、東の隅、南のはて、北のはてにいた

郵便



るまで、能く音信を通ずべく、又外國と雖ども郵便聯約の國は、數千里の遠きも、郵送し得べし、電信線は、其線路の里程二千百四十里餘、線條の延長は、五千九百二十里より、東京を中央とし、西は東海道を経て、京都大坂に達し、畿内中國の

蒸氣車、蒸氣船、電線、郵便、配達の圖



航路

諸國を過ぎて、赤間關より、海底線となり、豊前の小倉に至り、九州諸國に通じ、長崎より再び海底線となり、一線は朝鮮の釜山浦へ達し、一線は支那の上海に至り、遠く歐羅巴諸國と音信を通ず、又中國と、四國との間に、海底線ありて、四國との信を通ず、東北は陸羽の諸國に通じ、青森に至りて、海底線となり、渡島の函館、福山に通じ、北は甲斐より、中山道を経て、北陸諸國に連りて、一瞬の間、能く千里の遠きも、信を通ずべし、我國は、四方海に臨み、船を舶するの良港、乏しか



らざれば航海の便利甚だよろし、然れとも日本海即ち北海は、常々風波あらしきを以て、海を航するもの、東南太平洋より多くして、日本海より少るし、先横濱より船に乗じ、伊勢尾張の地方に至らんとせば相摸灘を經、遠江灘を過ぎて伊勢の四日市より上陸す、海路九十四里、又大坂地方に至るは、同く相摸灘、遠江灘を過ぎ、熊野浦、紀州沖を回りて、大坂灣に入り、神戸港に達す、海上百六十五里、而して遠江灘は、風波常々峻しく、舟人の戒むる所なり、神戸港より、尚西に航せんとするは、播

磨灘、水島灘を過ぎ、周防灘を經て、赤間關に至る、海上百十八里、又薩摩地方に至るは、硫黄灘より分れて、日向灘を航し、鹿兒島灣に入りて、鹿兒島に到る、神戸より此に至る、海上百八十里なり、赤間關より、玄海灘を經て、西に航し、松浦瀉を廻り、南に渡りて長崎に達す、海上七十二里、此港より尚進んで、西に航すること、二百二十一里なり、バ支那の上海に至るべく、又此より北に航し、對馬の嚴原に立寄り、朝鮮の釜山浦に至る、海上百里なり、又横濱港より、陸羽地方に航するは、房



州沖を繞り、鹿島灘を過ぎ、陸前の萩濱に至る、海上百三十四里、此を出で、尚北に航すれば、百二十六里より、函館港に達す、函館港より日本海に入り、南に航し、越後の新潟港、能登の七尾港に立寄り、越前の敦賀港に達す、尚西南に航すれば、石見瀨を過ぎ、響灘を経て、赤間關に到る、以上を、是れ我國外洋の航路とす、又横濱より東、太平洋を横ぎりて航すれば、亞米利加の桑方サンフランシスコ西斯哥シスコに達すべし、

第十五 名所舊跡

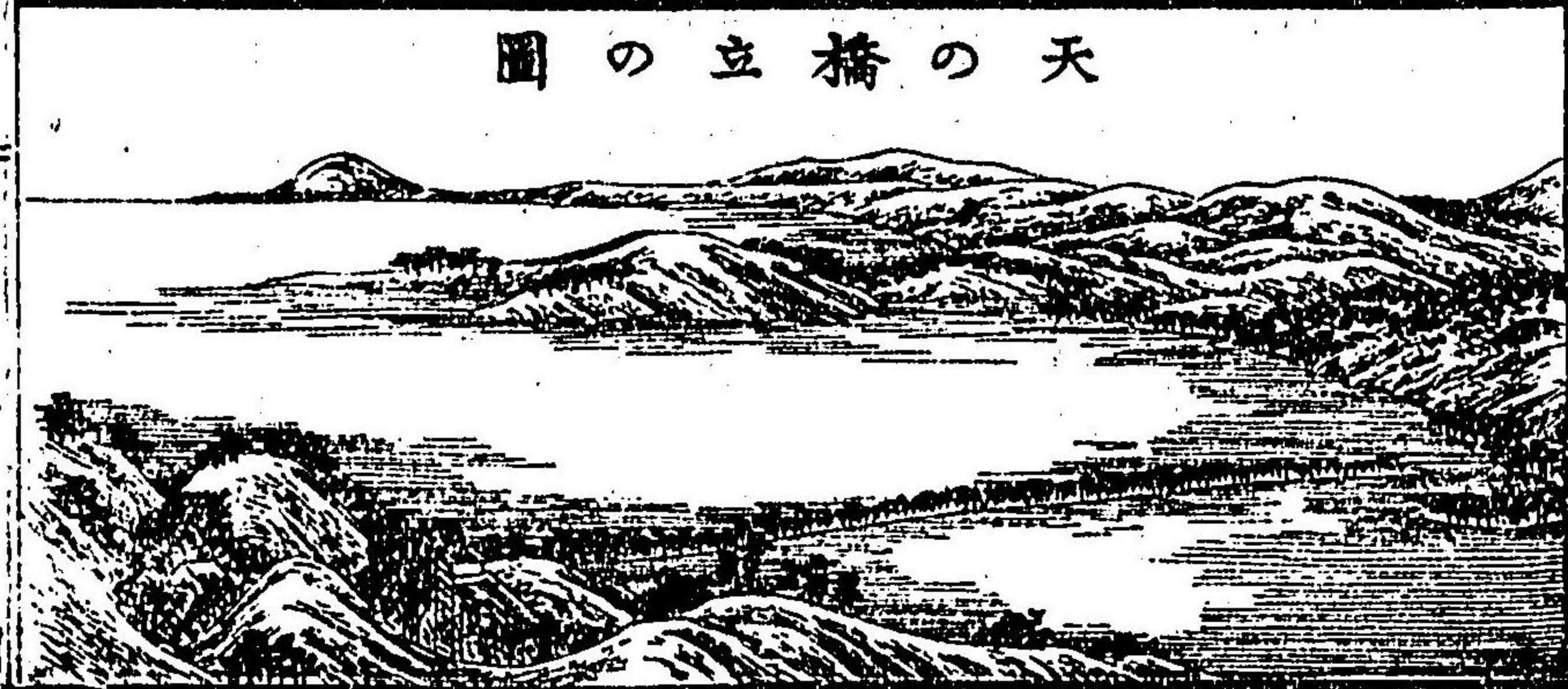
松島の圖



嚴島の圖



天橋立の圖





名所  
旧跡

我國中、眺望に富める地少あるならず、中にも、松島、  
巖島、天橋立と、日本の三景と稱す、其他、日光、鎌倉、  
須摩の浦等の、名所舊跡あり、

松島

松島は、陸前の松島灣にあり、數百の小島、松とい  
たゞきて、灣内に散在し、翠の色、波よりつりて、其  
眺め謂はんかたなく、

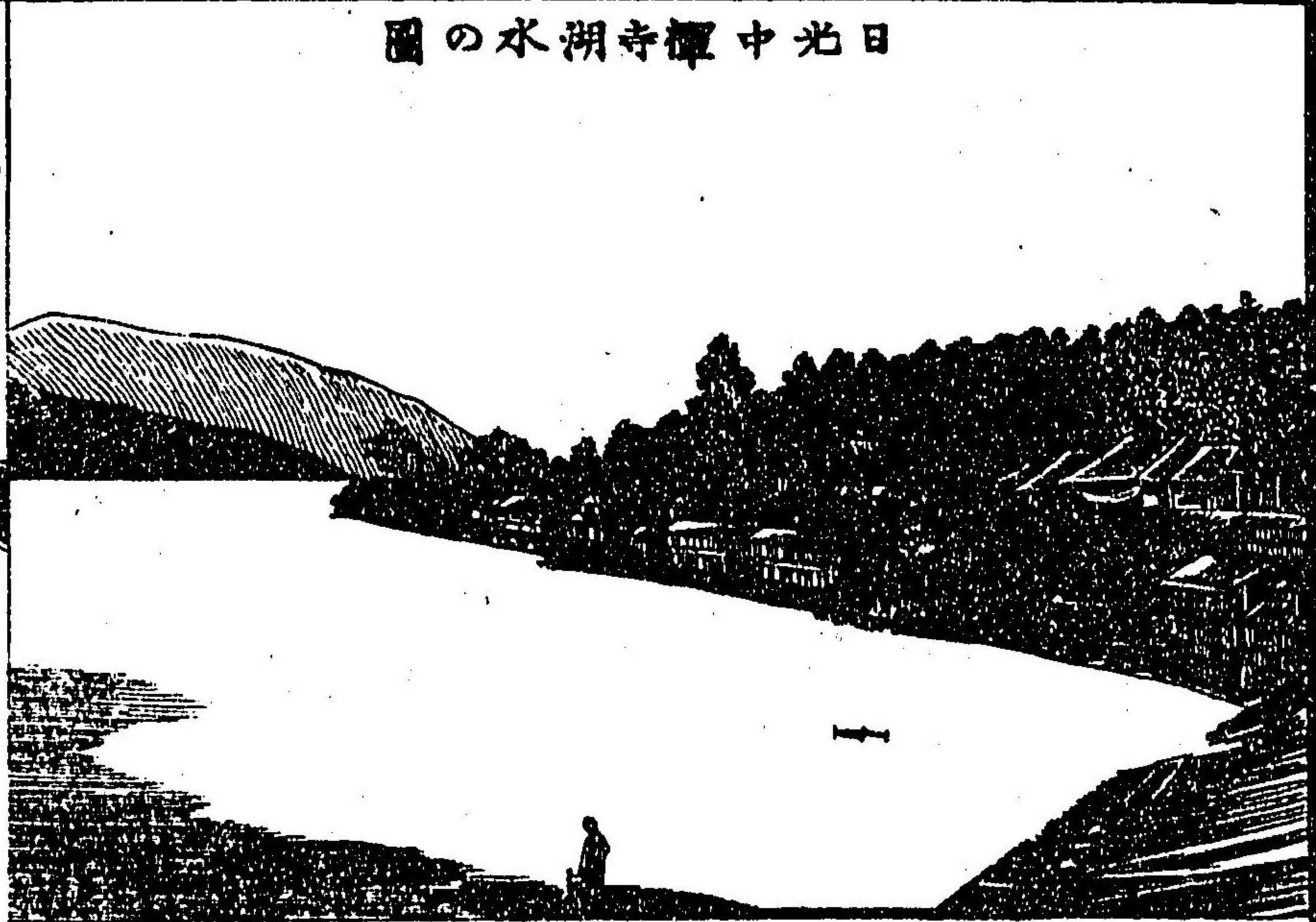
巖島

巖島は、一宮島といふ、安藝の海中にあり、島中  
辨才天を祀る、其社、崖よりて、水上に造る、殿廊  
うるまゝ、潮みつれば、水上よりかぶるごとく、  
實に絶景なり、

天橋

日光

日光中禪寺湖水の圖



天橋立は、丹後宮津港の  
西北にあり、一の砂洲、海  
にいつること五十町、青  
松其上に生じ、其景色は  
ふはだよし、  
日光は、下野黒髪山の麓  
にありて、徳川家康及び  
家光の廟あり、其宮殿の  
美麗なること、日本第一  
なりといふ、且つ山中に

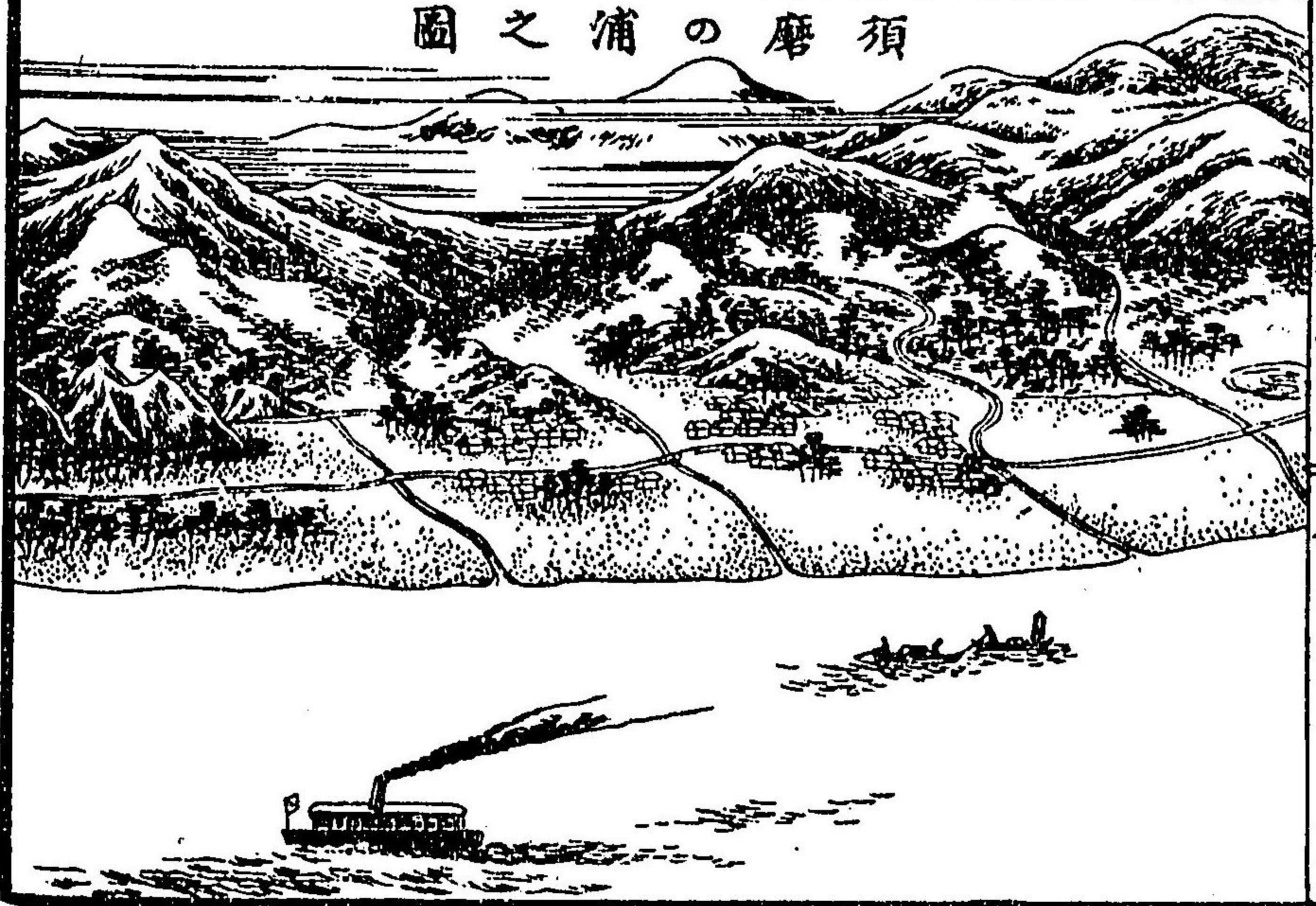


鑿

須磨浦

と中禪寺の湖、華嚴瀧、裏見瀧等の勝景多し、鎌倉ハ相摸あり、源頼朝幕府を建て、續て北條氏、足利氏此に居り、を以て、其舊跡いと多く、鎌倉宮、鶴岡神社等あり、其東南に金澤の八景、西に七里濱江島の名所あり、須磨浦は攝津の西南海

須磨の浦之圖



岸にありて、前は淡路島を望み、後は鐵拐鉢伏の諸山を負ひ、白沙青松相つらなり、播磨の舞子の濱、明石の浦につゞけり、

第十六 島嶼

屬島

我國屬島頗る多く、其數幾ト三千八百以下らず、佐渡、隱岐、壹岐、對馬、淡路及び琉球、八丈島、小笠原島等は、屬島中の著きものあり、

伊豆八島

伊豆の八島と稱するものハ、相摸灘の南に散在せる、大島、利島、新島、式根島、神津島、及三宅島、御倉島、八丈島といふ、此諸島ハ、土地瘠せて、住民二萬



入は過ぎず、皆漁獲、耕織と務む、獨八丈島ハ、居民一萬餘あり、名高き八丈絹と産す、三倉島と八丈島との間、潮流恰も急河の如し、之を黒瀬川といふ、

小笠原島

小笠原島ハ、八丈島の南、百八十里ありて、之を我國の極南地とす、此島



小笠原島の草水鳥獸の圖

ハ、八十九の小島より成り、父島、母島、左右に立ち、兄弟、姉妹の諸島、之をめぐれり、氣候熱くして、年中雪を見ず、草木よくしげり、杪羅水、蠟樹、鯨木等あり、又野羊、野鷄、信天翁、大蝙蝠、蠓龜等ありて、其形内地のものとなり、住する人の數百にすぎず、

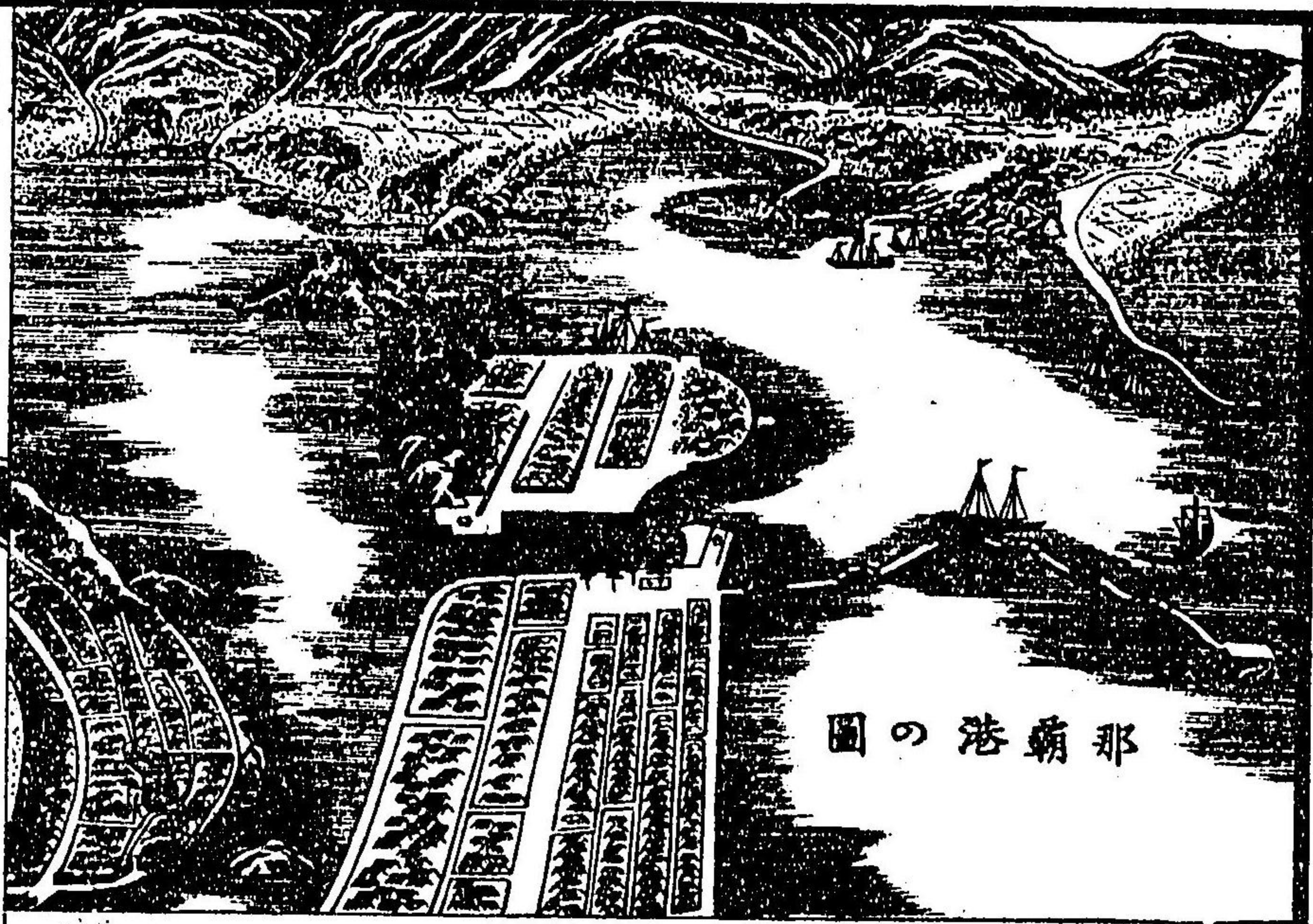
内海中、島嶼頗る多し、讚岐の小豆島、鹽飽島、伊豫の大島、大三島、備後の向島、因の島、安藝の生口島、大寄島、倉橋島、能美島、周防の八代島等ハ、人口各一萬以上あり、皆土地肥えて、海産の利あり、



西海道に屬する島嶼の大なるものハ、肥前の平戸島、中通島、福江島、肥後の天草島、大隅の櫻島、種子島、屋久島、薩摩の長島、甑島等よりして、一萬以上の人口あり、

琉球も、薩摩海の西南にある、一帯の島嶼よりして、其大なるものと沖繩島、大島、宮古島、石垣島、入表島とす、氣候熟くして、雪を見ず、草木はひげりて、年中枯れ落つることなく、芭蕉、蘓鐵、椰樹、榕樹等、高く生長せり、此島は飯匙、倩と稱する毒蛇ありて、往々人畜を害することあり、又此島の産物

琉球



那覇港の圖

ハ、黒砂糖、芭蕉布、上布、甘薯等あり、沖繩島の那覇は那覇の東、五十町あり、人口四萬の都會よりして、古王城のありし處あり、千島群島ハ、根室の東北に連り、其中國後、擇捉、得撫、幌筵の四島を大なり



とす、占守を最北の小島として、魯國の堪察加を隔る、數里に過ぎず、諸島の住人實に僅少あり、

村田真齋画

塚田針太郎彫刻

地理の大要卷中終

明治十九年五月七日版權免許  
明治十九年十二月出版

定價拾錢

編輯人

福島縣平民

前川一郎

野州安蘇郡馬門村

東京府平民

石川壽々

日本橋區馬喰町二丁目一番地

出版人

東京馬喰町二丁目一番地

石川治兵衛

千葉本町壹丁目四番地

石川代理店立真舎

福島縣福島

石川代理店

發行書肆